

「福島県地域訓練コンソーシアムによる
離職者向け職業訓練コースの開発及び検証」
に係る報告書

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
福島支部福島職業能力開発促進センター

はじめに

離職者を対象とした短期間の委託訓練や求職者支援訓練といった職業訓練プログラムは、これまで民間教育訓練機関等において実施され、そのノウハウが培われてきましたが、一方で、今後、民間教育訓練機関等を活用した委託訓練において、地域で必要な能力開発機会を確保する際には、より就職の可能性を高めることができる職業訓練コースの提供が求められています。

厚生労働省の「非正規雇用労働者の能力開発抜本強化に関する検討会」の報告書（平成24年12月21日公表）においても、「身近な地域で、必要な訓練を受けることができるよう、地域の能力開発の拠点として、コンソーシアム方式で、地域の公共職業訓練機関、大学等教育機関を活用して、経済団体等と連携・協力しながら、地域や社会全体の人材ニーズを踏まえた能力開発機会を身近な場で提供していくことが必要である」として、その際には「公共職業訓練機関や業界団体等が連携・協力して効果的な訓練カリキュラム等を開発・普及させていくこと」や「民間職業訓練機関の質を向上させること」が重要な取組とされています。

また、政府の「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）においても、「地域レベルの産学官コンソーシアムの組成による就職の可能性を高める訓練コースの開発・実施等によるフリーター等の正規雇用化支援を実施する」と明記されています。

これらを踏まえ、企業ニーズ等を把握し、就職の可能性をより高めるための職業訓練コースを開発するため、福島職業能力開発促進センター（以下「ポリテクセンター福島」という。）において、福島県、福島労働局、企業・事業主団体、労働組合、民間教育訓練機関等によるネットワークを構築し、福島県地域訓練コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）を組織しました。当該コンソーシアムについては、2分野（介護・医療福祉分野、IT・情報デザイン分野）において、職業訓練コースの「介護福祉士実務者研修科」及び「プログラマ&システムエンジニア養成科」を開発し、委託訓練の実施を通じた訓練カリキュラムの検証を行い、その結果を踏まえてモデルカリキュラムとして取りまとめました。

本報告書はこれら一連の成果を取りまとめたものであり、本事業の成果が、今後の職業訓練の参考となれば幸いです。

最後に、本事業の推進にあたって多大なご協力をいただいたコンソーシアム委員並びに関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

目 次

I	コンソーシアムの概要	P3
II	福島県地域訓練コンソーシアム委員	P3
III	分野選定の背景	P4～6
IV	検証訓練の実施状況及び検証結果	P7～28
V	本事業の成果物について	P29～31
	資料集	P31～76
1	介護・福祉医療分野	
	「介護福祉士実務者研修科」関連資料一覧	
	資料1-1 委託訓練モデルカリキュラム	
	資料1-2 科目の内容・細目シート	
	資料1-3 使用教材リスト	
2	IT・情報デザイン分野	
	「プログラマ&システムエンジニア養成科」関連資料一覧	
	資料2-1 委託訓練モデルカリキュラム	
	資料2-2 科目の内容・細目シート	
	資料2-3 使用教材リスト	

I コンソーシアムの概要

地域の人材ニーズ等を踏まえた職業訓練コースを開発するため、ポリテクセンター福島において、福島県、福島労働局、企業・事業主団体、労働組合、工業高校及び民間教育訓練機関等によるネットワークを組織し、企業・事業主団体が求める知識・能力を職業訓練に取り込む連携体制（地域コンソーシアム）を構築しつつ、離職者向け職業訓練コースの開発を行なった。

なお、コンソーシアムの開催概要については以下のとおり。

開催回	開催日	議題等
第1回	平成27年7月1日	<ul style="list-style-type: none">・福島県地域訓練コンソーシアムの設置について・コンソーシアム事業の概要・開発する離職者向け職業訓練コースの分野選定について・訓練カリキュラム概要案の検討・確定について・今後のスケジュールについて
第2回	平成27年9月16日 ～9月30日 (持回り)	<ul style="list-style-type: none">・検証訓練カリキュラムについて・受講者募集等のスケジュールについて・広報用資料、訓練コース周知・広報について
第3回	平成28年6月17日	<ul style="list-style-type: none">・離職者向け職業訓練コースの実施状況について・在職者向け職業訓練コース開発の状況について・在職者向け職業訓練コースの開発分野選定及び事業主団体の選定について・今後のスケジュールについて
第4回	平成29年2月28日	<ul style="list-style-type: none">・離職者向け職業訓練コースの開発について・在職者向け職業訓練コースの開発について・職業訓練のベストミックスの推進の検討について

II 福島県地域訓練コンソーシアム委員

座長 福島職業能力開発促進センター所長
福島県商工労働部産業人材育成課 主幹
福島労働局職業安定部地方訓練受講支援室 室長補佐
福島商工会議所 常務理事・事務局長
日本労働組合総連合会福島県連合会 副事務局長
福島県専修学校各種学校連合会 事務局長
福島県情報産業協会 監事
福島県介護福祉士会 会長
福島県立福島工業高等学校 機械科長・教諭

Ⅲ 分野選定の背景

福島県において開発する離職者向け訓練コースとして、県の産業施策及び求人・求職者の動向から、次の①～⑤の視点・着眼点により検討し選定することとした。

【視点・着眼点】

- ① 福島県において、これまで委託訓練として実施していないコース。
- ② 既存の委託訓練コースのブラッシュアップや新たな要素（企業実習等）を付加したコース。
- ③ 成長分野への労働移動を支援するコース。
- ④ 訓練分野に求人ニーズ及び求職ニーズが存在すること。
- ⑤ 平成23年3月東日本大震災により被災した福島県において、原発事故の影響もあって、若手の労働力が不足している状況を改善する。特に介護・医療福祉分野の人材不足が深刻であり、労働移動で人材不足の緩和を図る。
また、今後の復興に向けて、国の施策から先端技術開発拠点になる方向性が見え、それらを含む情報技術の高度化に対応できる人材を育成する。

コンソーシアムにおいて、事業開始年度当初に以下の調査結果により、「1 介護・医療福祉分野」、「2 IT・情報デザイン分野」の2分野を選定した。

1 介護・医療福祉分野

- ・超高齢化、家族・地域の変容、雇用環境の変化等から、国は「社会保障制度国民会議報告書」を平成25年8月に発表し、介護・看護体制は従来の施設中心から医療と介護のネットワークの構築が必要であるとし、その報告書の提言に合せた施策が取られつつある。
- ・厚生労働省の平成25年6月社会保障審議会・介護保険分科会での長期推計では、介護職員が平成24年149万人、平成37年（団塊世代が75歳以上の後期高齢者になる）約240万人（平成24年比で1.5倍以上）と推計されている。少子高齢化、家族・地域の変容等が進む中で、介護業界への労働移動の重要性が増している。
- ・福島県では平成23年3月東日本大震災・原発事故により、介護職員が県外・県内へ流出し、平成27年においても避難者の帰還状況は鈍く、若年層の介護職員不足が逼迫している。
- ・平成26年度の有効求人倍率は、全国で約2倍、福島県では3倍弱、特に浜通り地域は3倍強と推移しており、今後も高い倍率で推移するものと予測される。
- ・福島県社会福祉協議会の「平成25年度福祉人材の確保・育成・定着に関する調査報告書」によると、職員不足の事業所が全体の50%以上を占める。7割以上の事業所がハローワークを通じた募集を行なっている。
- ・人材確保には求人以外に、人材育成と人材定着が不可欠である。福島県社会福祉協議会の「平成25年度福祉人材の確保・育成・定着に関する調査報告書」によると、人材育成の取り組みとして、6割以上の事業所が、事業所全体の教育・研修計画を実施と回答している。一方、職員一人ひとりの教育・研修計画を立てている事業所は19.9%である。キャリアパスの仕組みを作成しつつあるが、それに基づく人材育成がさらに求められる。
- ・介護職の県内の離職者訓練は、介護職員初任者研修が大半を占めている。今後介護

サービスの充実を考慮すると、介護福祉士が多く求められ、平成 28 年度介護福祉士国家試験から、実務経験 3 年に加え、介護福祉士実務者研修修了が必要になっている。

- ・介護サービスの対象者は、高齢者や障害者であり、介護の日常生活には介護福祉士実務者研修の内容で対応、さらに非日常生活にも対応できる救命講習や障害者支援サービスであるガイドヘルパー同行介護従事者講習、等を取り入れた訓練を追加し、ブラッシュアップすることにより、介護サービスの多様化に対応でき、就職の可能性が高まると考えられる。

以上のことから「介護・医療福祉分野」を選定した。

2 I T ・情報デザイン分野

- ・国の重要課題である医療機器、再生可能エネルギー、介護ロボット等の最先端の技術開発には、I T 技術が必要不可欠になっている。それに向けた研究開発機関が近年設立されてきている。産業技術総合研究所（AIST、全産業対象のグリーン及びライフテクノロジーがテーマ）が平成 13 年 4 月に統合・再編、日本原子力研究開発機構（JAEA）が平成 17 年 10 月に設立、日本再生可能エネルギー総合研究所（JRRRI）が平成 23 年 8 月に設立、それぞれの機関が活動中である。
- ・産業技術総合研究所に属する福島再生可能エネルギー研究所は、平成 26 年 4 月に郡山市に開所し、平成 27 年度からいわき沖で洋上風力発電の実証試験を始める。また原発事故の廃炉対策として電力会社とプラントメーカーの組合である国際廃炉研究開発機構（IRID）は平成 25 年 8 月に設立され廃炉ロボットの開発を進めている。それらの I T 技術を開発する会社の事業所が今後 3 年以内に福島県に本格的に進出に増加してくる可能性が高く、福島県内 I T 業界としても需要増加に期待している。
- ・I T 事業には、業務系アプリケーション（人事、経理、生産管理、等）と制御・組込み系（各種技術）がある。I T 技術開発で、一般的に業務系アプリケーションはチーム主体で開発、制御・組込み系は個人主体での開発になる。今後は IoT（インターネットオブシングス）等、制御・組込み系事業に比重が高まると見られている。
- ・I T 技術レベルには、一般的に上位（システムエンジニアクラス）、中位（簡単なシステム設計）、下位（プログラミング）があるが、福島県内 I T 業界では上位・中位の人材が不足している。新入社員の人材育成で一般的に、下位クラスは 1~2 年、中位クラスは 3~5 年、上位クラスは 10 年程度かかるといわれている。
- ・高度情報化は企業の自助努力が必要であるが、企業間の連携も必要不可欠である。福島県では産学官一体となった「ふくしま I C T 利活用推進協議会」や NPO 法人「I T C ふくしま」等の活動により、全産業における経営革新のツールとしての I T 化のために企業へ支援を行っている。
- ・平成 26 年度の有効求人倍率は、全国で約 2 倍、福島県では約 1.4 倍であり、全産業におけるグローバル化や情報技術の高度化・進展を考慮すると I T 技術者は今後も不足する。
- ・県内の I T 訓練は情報リテラシー（パソコン使用訓練）が大半であり、システム設計まで取り入れたコースは極めて少ない。
- ・県内 I T 産業界の中途採用には即戦力が求められるのと、国及び県内の 3 年後の I T 技術動向をみると、基本情報技術者試験資格と同等技術を有して簡単なシステム

設計ができる人材を求めている。よって、情報リテラシー関連に制御・組込み系や業務アプリケーション系のIT技術の下位レベルに対応できるような技術を追加した新規コースを設定することにより、IT技術の幅を広げ、レベルアップをすることにより就職の可能性が高まると考えられる。

以上のことから「IT・情報デザイン分野」を選定した。

IV 検証訓練の実施状況及び検証結果

1 介護・医療福祉分野

(1) 試行する訓練カリキュラムの決定

分野選定から介護福祉士実務者研修科のカリキュラムを決定し、訓練目標に合致した検証訓練を試行することにした。

訓練科名	介護福祉士実務者研修科	就職先の職務	在宅介護サービス業務 福祉施設内介護業務
訓練期間	平成27年12月2日～平成28年6月1日 (6か月)		
訓練目標	①介護サービス(施設・在宅)において必要となるマナーや介護の知識、技能等を取得する。 ②介護の現場で即戦力となる人事を育成する。 ③訓練修了後は、次の資格が取得できる。 介護福祉士実務者研修、普通救命講習Ⅰ、外出介護従業者養成研修(旧称ガイドヘルパー)(視覚課程、全身性課程)、強度行動障害支援者養成研修		
仕上がり像	幅広い利用者様に対して、基本的なサービスを提供することができ、非日常的に発生する状況(救命救急等)にも冷静に対応することができる人材を育成する。 また、今後の制度改正や新たな課題・技術・知見を自ら把握し、柔軟に対応することができる力を身に付ける。		
訓練の内容	科目	科目の内容	訓練時間
	・開講式等	開講式、オリエンテーション、修了式	
	・職業能力基礎講習	職業意識、ビジネスマナー、安全衛生、健康管理、コミュニケーションの重要性	15時間
	・就職支援	求人情報の提供・見方、キャリアコンサルティング(ジョブ・カード使用)、履歴書の作成支援、面接指導・模擬面接、介護業界の労働環境・賃金体系、介護施設毎の特徴、ハローワーク・機構・受託機関との連携支援	21時間
	・人間の尊厳と自立	生活支援の考え方、ノーマライゼーション、権利擁護	6時間
	・社会の理解Ⅰ・Ⅱ	介護保険制度、生活と福祉、各国の介護と福祉の制度、障害者総合支援法、介護実践に関連する諸制度	42時間
	・介護の基本Ⅰ・Ⅱ	介護福祉士制度、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開、介護福祉士の倫理、介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における安全の確保とリスクマネジメント、介護職員の健康管理と労働法規	36時間
	・コミュニケーション技術	コミュニケーションの基本的理解、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション	24時間
	・介護過程Ⅰ	介護過程の基礎知識・展開・チームケア	24時間
	・発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ	老化に伴うこころとからだの変化、老年期の発達・成熟と心理、高齢者に多い症状・疾病等と留意点	36時間
・認知症の理解Ⅰ・Ⅱ	認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本、医学的側面からみた認知症の理解、認知症の人や家族への支援の実際	36時間	

学 科	・障害の理解Ⅰ・Ⅱ	障害者福祉の理念、医学的側面からみた障害の理解、障害(児)者への支援の実際	36時間	
	・こころとからだのしくみⅠ	介護に関するこころとからだのしくみの基礎的理解(移動、入浴、排泄、口腔、睡眠)、死にゆく人のこころとからだのしくみ	24時間	
	・医療的ケア	医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引(知識、手順)、経管栄養(知識、手順)	63時間	
	・全科目修了テスト	修了テスト※科目修了毎にも科目修了テストを実施	3時間	
	・強度行動障害支援者養成研修	強度行動障害基礎研修、強度行動障害実践研修	24時間	
	・外出介護従業者養成研修(旧称ガイドヘルパー)	視覚課程、全身性課程	36時間	
	実 技	・生活支援技術Ⅰ・Ⅱ	生活支援とICF、ボディメカニクスの活用、介護技術の基本、環境整備、福祉用具活用等の視点、ターミナルケア、介護技術の評価	60時間
		・介護過程Ⅱ・Ⅲ	利用者の状態を設定した事例展開と応用力、観察・安全確保、介護技術の評価	84時間
		・こころとからだのしくみⅡ	からだのしくみ・心理・認知機能を踏まえた介護のアセスメントと観察、介護の連携	66時間
		・医療的ケア	喀痰吸引・経管栄養の演習	15時間
		・普通救命講習Ⅰ	応急手当の重要性、AEDの理解、使用	3時間
		・職場実習	職場実習	54時間
訓練時間総合計 708時間 (学科 426時間、実技282時間)				
主要な機器設備 (参考)	実習用モデル人形、人体骨格模型、成人用ベッド、スライディングボード、車いす、入浴用具一式、ストレッチャー、排泄用具一式、視聴覚機器、吸引装置一式、経管栄養用具一式、吸引訓練モデル、経管栄養訓練モデル、心肺蘇生訓練用機器一式、人体解剖模型			

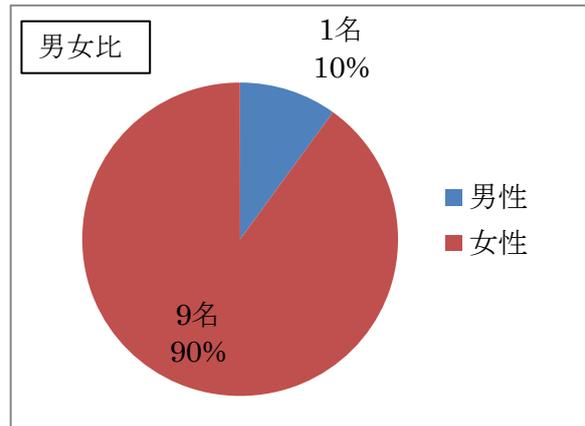
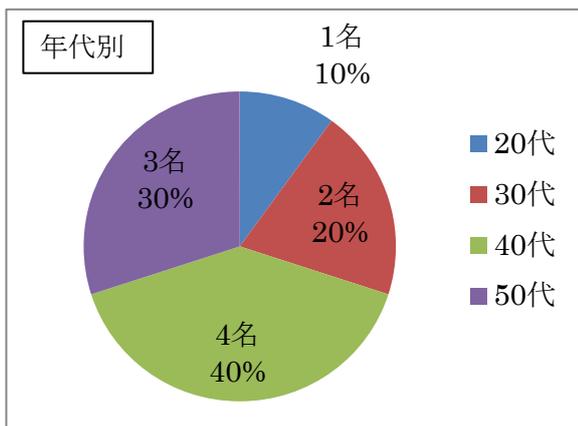
(2) 職業訓練の試行結果

①介護福祉士実務者研修科の訓練実施機関、期間、定員

訓練実施機関	訓練開始日	訓練終了日	訓練期間	定員
(株) レイバーサポートシステム	平成27年12月2日	平成28年6月1日	6か月	20名

②応募・入所状況

応募者数	入所者数	年代別					
		うち女性	20代	30代	40代	50代	60代
11名	10名	9名	1名	2名	4名	3名	0名



③訓練生募集活動の状況

募集期間	選考日	合否判定日	合格発表日	入所手続日
H27. 10. 9～11. 6	H27. 11. 13	H27. 11. 13	H27. 11. 20	H27. 12. 2
(追加募集) H27. 11. 9～11. 20	H27. 11. 25	H27. 11. 26	H27. 11. 26	H27. 12. 2

・ 広報の実施状況

ホームページ	募集チラシ	広告戸別チラシ
ポリテクセンター福島	ハローワーク窓口・4ヶ所 卸商団地（公的施設）・1ヶ所 福島県社会福祉協議会	広告代理店から会津・喜多方 地域全戸に配布：10月25日、 11月1日（2回、各回75千部）

・ ハローワーク及び訓練実施機関での説明会の開催状況

開催日	場所	参加人数
H27. 10. 22	会津若松市文化センター （ハローワーク会津若松主催）	約100名
H27. 10. 29	ハローワーク喜多方	25名
H27. 11. 5	会津若松市文化センター （ハローワーク会津若松主催）	約100名
H27. 11. 12	ハローワーク喜多方	20名
H27. 11. 19	会津若松市文化センター （ハローワーク会津若松主催）	約100名
H27. 11. 10	訓練実施機関	0名
H27. 11. 16	同上	3名

追加募集や広告戸別チラシを配布したものの、応募者数が少なかった要因としては、イ. 景気が良くなりつつあり、他業界に人が流れた。 ロ. 福島県の特有の復興事業で、介護業界に人が流れにくくなった。 ハ. 介護業界の雇用環境が他業界より劣る（シフト勤務、収入、等）。 ニ. 訓練実施機関が会津若松市にあり、訓練期間の冬季は降雪があるのと他地域から通学の交通利便性が悪い、等が考えられる。

よって、ハローワーク窓口や関係機関の支援があったものの、応募は定員を満たさなかった。

④ 訓練修了時の研修・講習修了証の発行数

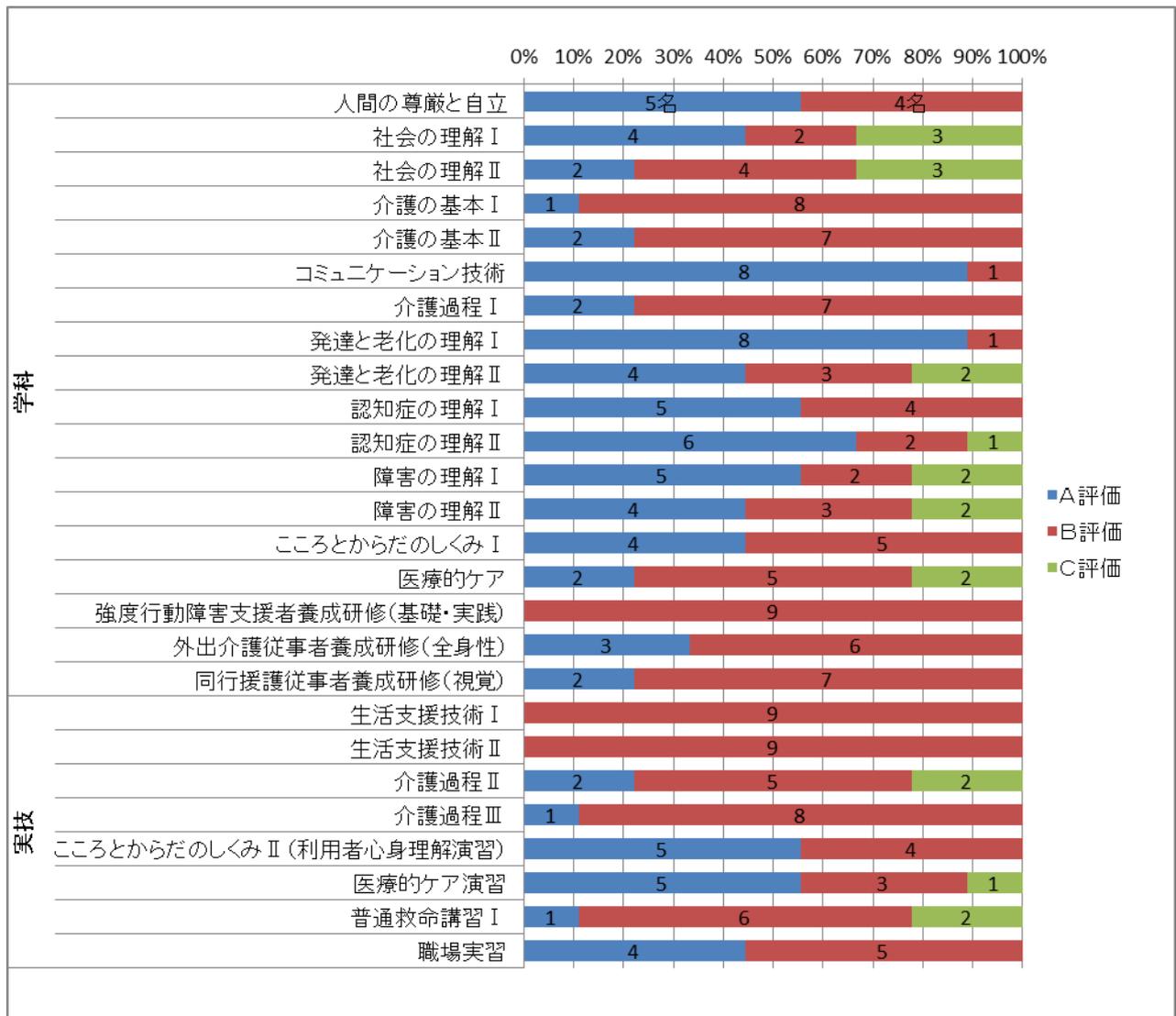
研修・講習の名称	障害対象	修了者数	修了書の有効期間
介護福祉士実務者研修		9名	期限なし
強度行動障害支援者養成研修・基礎	知的精神	9名	期限なし
強度行動障害支援者養成研修・実践	知的精神	9名	期限なし
同行援護従事者養成研修・一般課程	視覚	9名	期限なし
外出介護従事者養成研修・全身課程	全身	8名	期限なし
普通救命講習 I		9名	3年間

就職先の高齢者施設や障害者施設で介護サービスの即戦力化に対応するため、障害者サービス関連研修が必要とされると判断し、福島県認定の障害者支援者研修等を取り入れた。上記の研修等は訓練修了時に修了証が発行される。

⑤ 訓練機関が行った受講者の習得度評価結果

職業能力を証明するツールとして厚生労働省が推奨するジョブ・カード様式4-2 [評価シート]により、訓練生の習得度を教育訓練機関が評価した結果は次のとおりである。

A評価：到達水準を十分上回った B評価：到達水準に達した C評価：到達水準に達しなかった



・評価のほとんどが B 評価以上なので就職に支障が出るとは考えにくい。

⑥中退、修了、就職の状況（就職率77.8%、訓練修了3か月後）

修了者数				中退者数		
	うち女性	うち就職	就職率		うち女性	うち就職
9名	8名	7名	77.8%	1名	1名	0名

・中途退所者は1名であり、訓練開始4か月後の妊娠によるものであることから就職調査対象外とした。

修了者は9名で訓練修了時の就職内定は2名、就職率は22.2%であった。引き続き訓練機関からの就職支援を継続し、訓練修了以降も求人情報や企業説明会の案内等を提供したことや、月に2～3回の就職状況の確認をした結果、修了3か月後の就職率は77.8%となった。

（参考：訓練修了4か月後で8名就職、就職率88.9%）

⑦就職先（訓練修了3か月後）

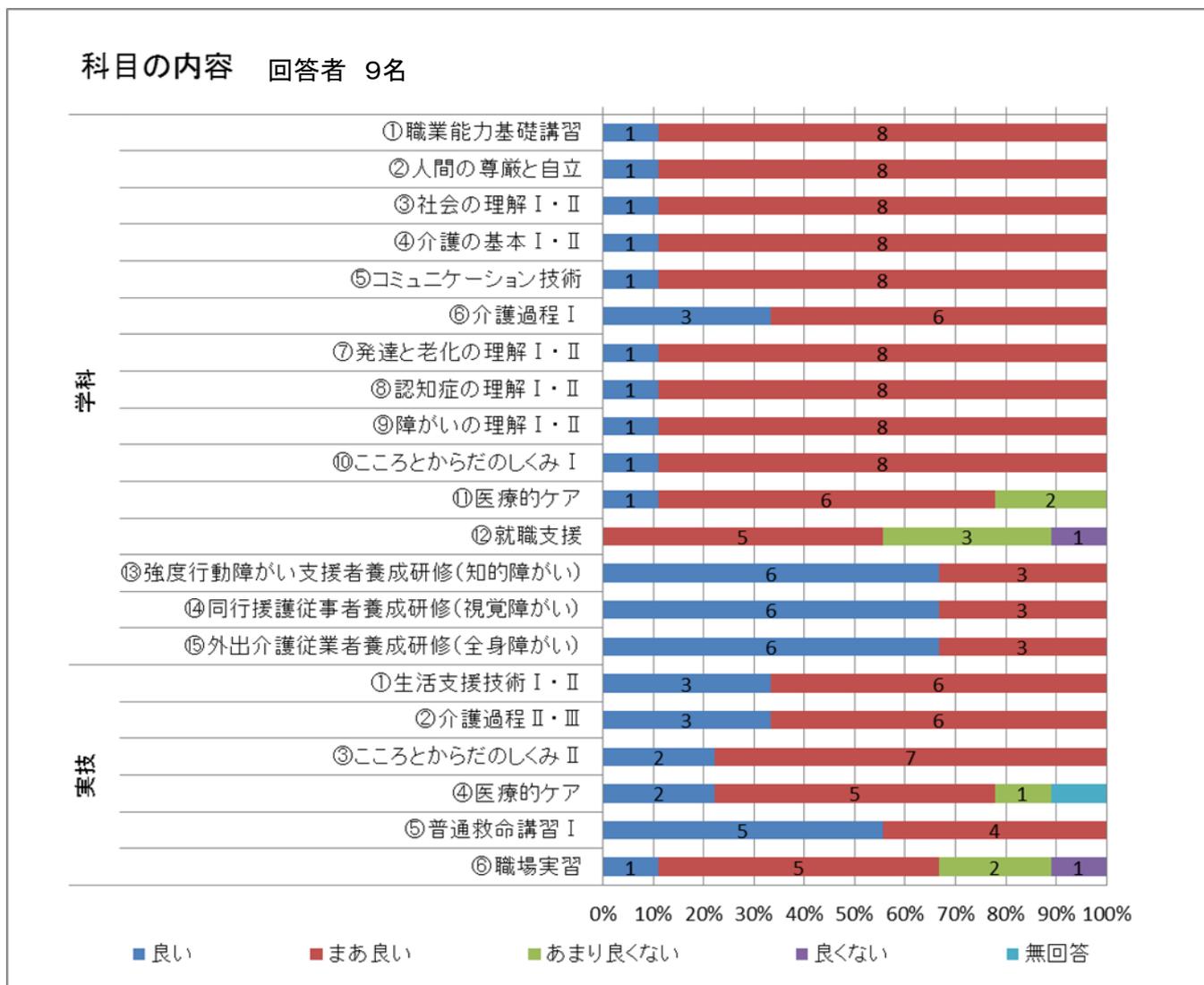
就職先	雇用形態	該当者数
社会保険・社会福祉・介護業界 高齢者介護施設	常勤、正社員	5名
同上	常勤、非正規社員	1名
同上	派遣社員	1名

・9人中7名が就職でき、7人全員が介護関連職場に就職できた。個人の生活スタイルや本人の希望が関連するものの正社員率71%（5÷7）であり、全産業業界の平均正社員率約60%から見るとかなり高いといえる。その内介護業界での正社員率は施設が約65%、訪問系が35%（介護労働安定センターの平成24年度介護労働実態調査より）であることから、今回施設に就職できた正社員率はやや高いといえる。

⑧訓練生のアンケート結果

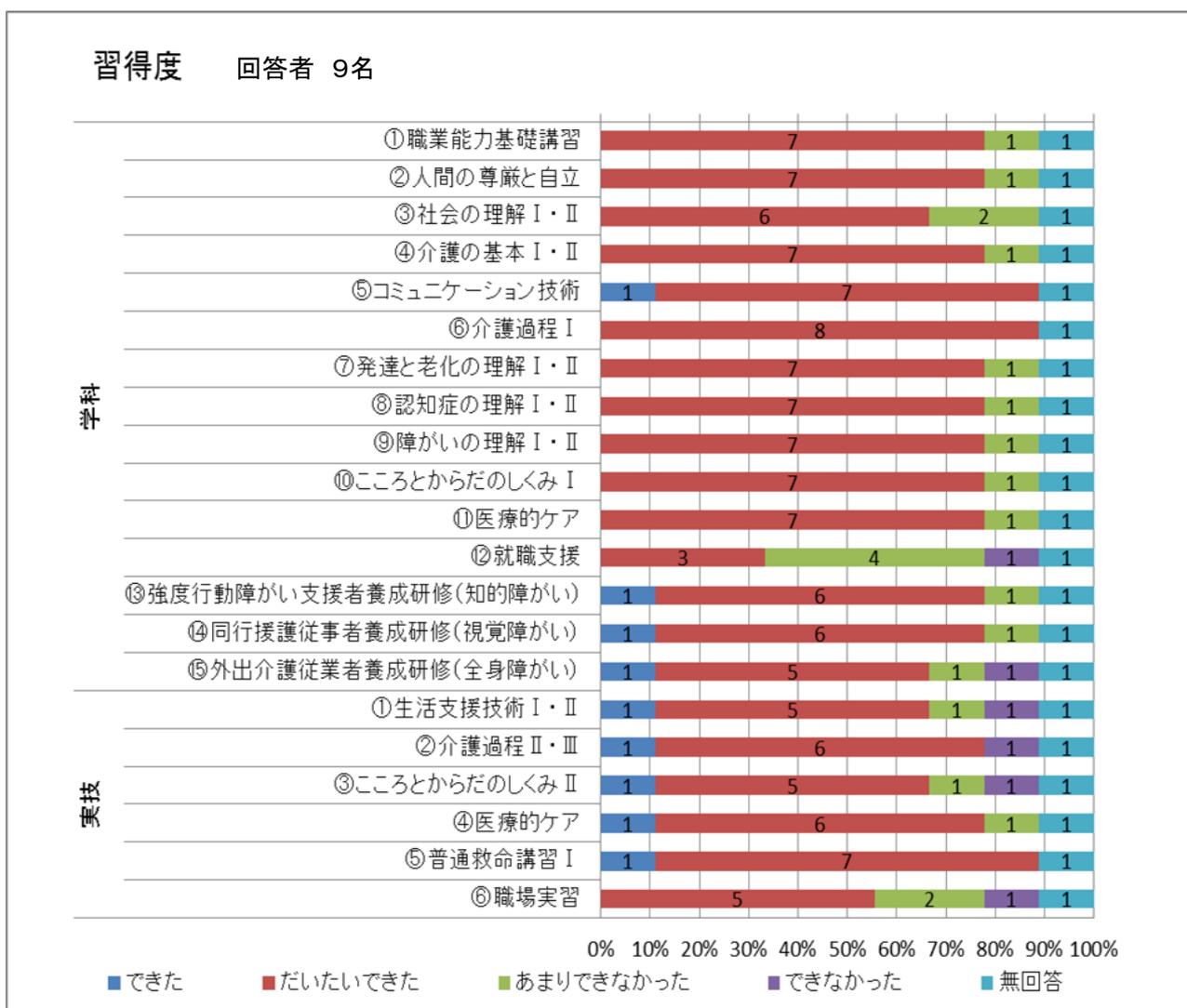
訓練修了時や修了2か月後に行なった受講者アンケートの結果は次のとおりである。

【科目の内容】



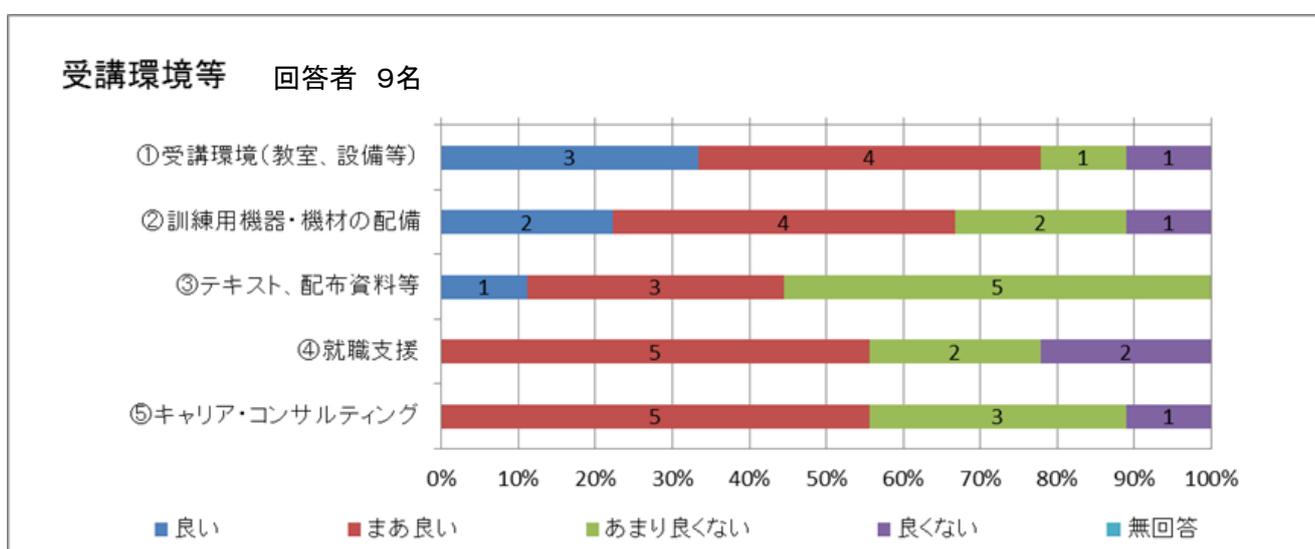
- ・ 厚労省基準に準じている介護福祉士実務者研修内容やそれに関連した職場実習、就職支援は、概ね良いと評価を得ている。
- ・ 本訓練の特徴である学科⑬～⑮障害者支援講習、実技⑤普通救命講習Ⅰは高い評価を得ている。

【習得度】



・概ね、だいたいできたの評価であるが、就職支援の相談時間増加の要望があった。

【本訓練全体を振り返って】

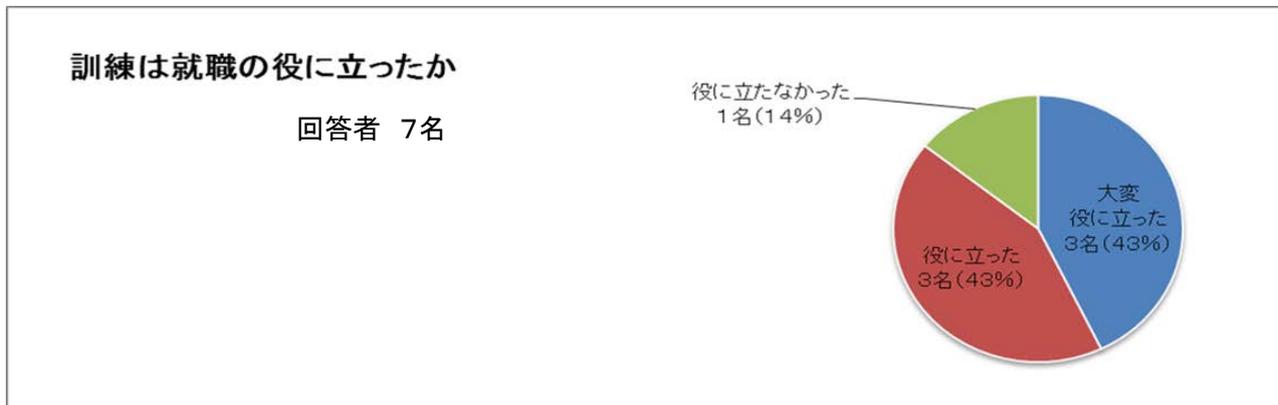


・全体に、概ねまあ良いとの評価であるが、テキスト、配布資料等に難点がある。

この要因には、介護職未経験者が多くテキスト(市販)が理解しきれないのと、テキストの読み合せ的な進め方に一因があると考えられる。

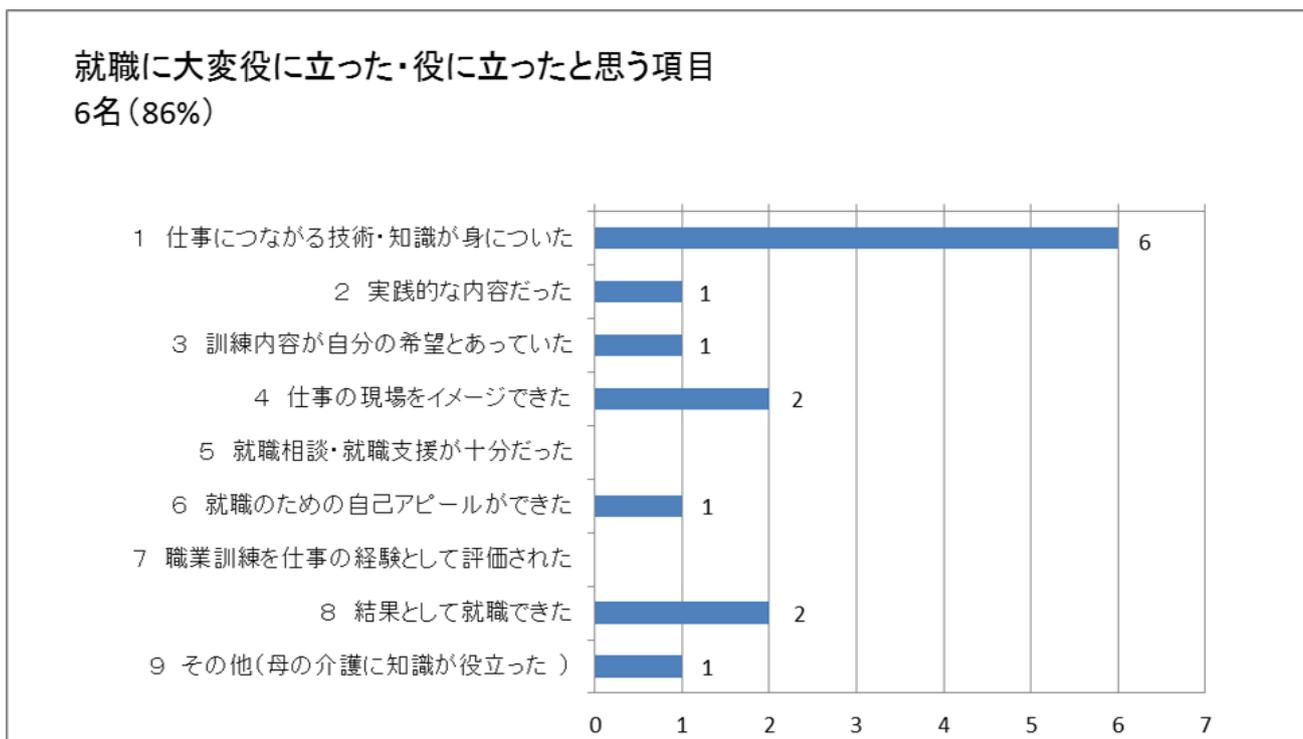
- ・キャリア・コンサルティングで、ジョブカード作成は集合でやったが、個人別の就職相談の時間数がやや少なかったようである。

【職業訓練の受講が就職に役立ったか】(訓練修了2か月後)



- ・アンケートは9人中7名の回答であったが、高い評価であった。

【大変役に立った、役に立った、と感じた内容】(複数回答可)



- ・ 1. の回答数が多いことは想定できたが、複数回答可であったものの、ほとんどの人の回答数が2件以下であった。
- ・ 8. の回答は、修了時に就職内定していた人の2名分が反映されている。

(3) 試行結果を踏まえた訓練カリキュラムの見直し

① 訓練機関からの改善提案概要

全体に時間不足で詰め込み過ぎである。

- ・ 医療的ケアに時間が欲しい。
- ・ 障害者支援研修（3科目：精神、視覚、全身）を、視覚、全身に絞ると良い。高齢者介護にも通じるので組合せとしても良い。
- ・ 障害者支援研修（1科目：精神）は、介護経験がないと理解が深まらない。
- ・ 障害者支援研修の再委託先と綿密な事前打合せを要する。（訓練生の介護経験の有無、男女比年齢層、使用テキスト、等）

② 訓練生からのアンケートより

- ・ 就職支援でジョブカード作成等や個人相談を増やして理解を深めたい。

③ 訓練カリキュラムの変更

科目	変更の有無	訓練時間（単位：時間）		主な見直しの概要	
		検証訓練	見直し後		
学科	職業能力基礎講習	無	15	15	
	就職支援	有	21	30（+9）	障害者支援研修の 24H 減少の内、個人相談等を 9H 増加する
	介護福祉士実務者研修科目	無	330	330	
	強度行動障害支援者養成研修（精神）	有	24	0（-24）	障害者支援研修は、全身と視覚に絞る
	外出介護従業者養成研修（全身）	無	16	16	
	同行援護従事者養成研修（視覚）	無	20	20	
	小計時間		426	411	
実技	介護福祉士実務者研修科目	有	225	240（+15）	障害者支援研修の 24H 減少の内、医療的ケア実技を 15H 増加する
	普通救命講習 I	無	3	3	
	職場実習	無	54	54	
	小計時間		282	297	
合計時間			708	708	

2 IT・情報デザイン分野

(1) 試行する訓練カリキュラムの決定

分野選定からプログラマ&システムエンジニア養成科のカリキュラムを決定し、訓練目標に合致した検証訓練を試行することにした。

訓練科名	プログラマ&システムエンジニア 養成科		就職先の 職務	プログラマ、 システムエンジニア等
訓練期間	平成 28 年 3 月 18 日～平成 28 年 9 月 16 日 (6 か月)			
訓練目標	①プログラミングに関する知識と技術を身につける。 ②社会人として必要な基礎力を養う。 ③情報処理関連の技術について幅広い知識を身につけ、就職に有利とされる IT 国家資格 (IT パスポート、基本情報技術者試験) の資格取得を目指せるスキルを身につける。			
仕上がり像	・ Java 言語によるプログラミング開発が出来る人材。 ・ 訓練終了後は、IT 業界からニーズがあり国家資格でもある IT パスポートや基本情報技術者試験の取得をはじめ、業界が注目している「ネットワーク技術」、ならびに「セキュリティ技術」を理解できる人材になること。			
訓練 の 内 容	科 目	科 目 の 内 容		訓練時間
	学 科	入所式等	入所式、オリエンテーション、修了式	
		ネットワーク概論	ブラウザ操作、電子メール活用、ネチケット、インターネットによる求職活動・情報の交換・共有・手段としてのネットワーク、LANとインターネット、ファイル共有の利点、ウイルス対策、ライセンス、セキュリティ管理等	20
		総合制作	システムの戦略、グループで要求分析、設計、開発、テスト、プロジェクトマネジメント、経営戦略、企業と法務など情報処理技術に関する知識	200
	実 技	就職支援	求人情報の提供、キャリアコンサルティング (ジョブ・カードを活用した)、職務経歴の棚卸、就職へ向けての方向付け、履歴書等の作成支援、面接指導、ハローワーク、機構、受託機関との連携支援	40
		セキュリティ実習	個人情報保護、情報の機密性・脆弱性、情報セキュリティ対策、マルウェア対策、サーバ管理 (使用 OS:Linux)	30
		ネットワーク実習	システムの動作確認、TCP/IP、ケーブル配線、ハブ・ルータ接続、インターネット接続、プリンター共有	60
		VBA 演習	アルゴリズム、マクロ、VBA 基礎、プロシージャの定義、変数とデータ型、ステートメント、条件分岐、ユーザーフォーム	40
		プログラミング演習	プログラムの文法 (Java 言語)、制御構造、オブジェクト指向	150
		プレゼンテーション実習	基本操作、プレゼンテーション資料の作成、各種効果の追加、スライドショーの実行	30
データベース実習		データベース設計、テーブル、リレーションシップ、SQL システム開発の作成方法	80	
社会人基礎力	多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力を育成する (コミュニケーション力、協働力、職業意識の醸成、訓練の必要性) パソコン基礎力、Office ソフト (Word・Excel) の活用演習	49		
訓練時間総合計 699 時間 (学科 260 時間、実技 439 時間)				
主要な機器設備 (参 考)	パソコン一式、プリンタ、プロジェクタ、インターネット利用環境、LAN 環境 ソフトウェア (OS (Windows8/7 Linux)、ビジネスアプリケーション (Office2013/2010)) タブレット (iPad mini)			

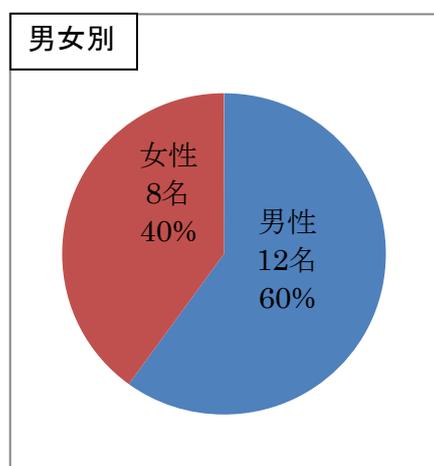
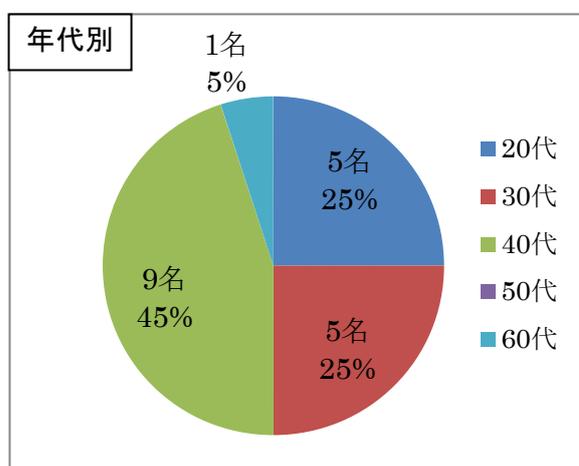
(2) 職業訓練の試行結果

① プログラマ&システムエンジニア養成科の訓練実施機関、期間、定員

訓練実施機関	訓練開始日	訓練終了日	訓練期間	定員
(株) エフコム	平成28年3月18日	平成28年9月16日	6か月	20名

② 応募・入所状況

応募者数	入所者数	年代別					
		うち女性	20代	30代	40代	50代	60代
25名	20名	8名	5名	5名	9名	0名	1名



③ 訓練生募集活動の状況

募集期間	選考日	合否判定日	合格発表日	入所手続日
H28. 1. 22~2. 22	H28. 2. 26	H28. 2. 27	H28. 3. 4	H28. 3. 18

・ 広報の実施状況

ホームページ	募集チラシ	広告戸別チラシ
ポリテクセンター福島 福島県情報産業協会	ハローワーク窓口・7ヶ所 ハローワーク関連窓口・3ヶ所 県就職支援関連窓口・4ヶ所 福島市就職相談窓口・1ヶ所 大学学生支援室・2ヶ所	広告代理店から郡山市・須賀川市・本宮市の全戸に配布：1月31日、2月7日（2回、各回187千部）

・ハローワーク、訓練実施機関での説明会の開催状況

開催日	場所	参加人数
H28. 1. 8、22、29、 H28. 2. 4、5、12 (6回)	ハローワーク郡山	合計 74 名 (希望者のみ)
H28. 1. 15、22、29、 H28. 2. 5、12 (5回)	ハローワーク福島	合計 463 名
H28. 1. 15、22、29、 H28. 2. 5、12 (5回)	ハローワーク二本松	合計 123 名
H28. 1. 15、22、29、 H28. 2. 5、12 (5回)	ハローワーク須賀川	合計 189 名
H28. 1. 14、28、H28. 2. 4 (3回)	ハローワーク白河	合計 169 名
H28. 2. 2	訓練実施機関	15 名
H28. 2. 10	同上	10 名

・応募者数が比較的多かった要因としては、イ. システムエンジニアの中位（簡単なシステム設計）、下位（プログラミング）を目指した研修コースが県内の民間や公的機関にない。 ロ. 訓練実施機関が県中央部の郡山市にあり、郡山市とその周辺は人口が多く、又他地域からの通学に交通の利便性が高い、等が考えられる。

④訓練中及び修了後 2 か月以内の資格取得（任意）

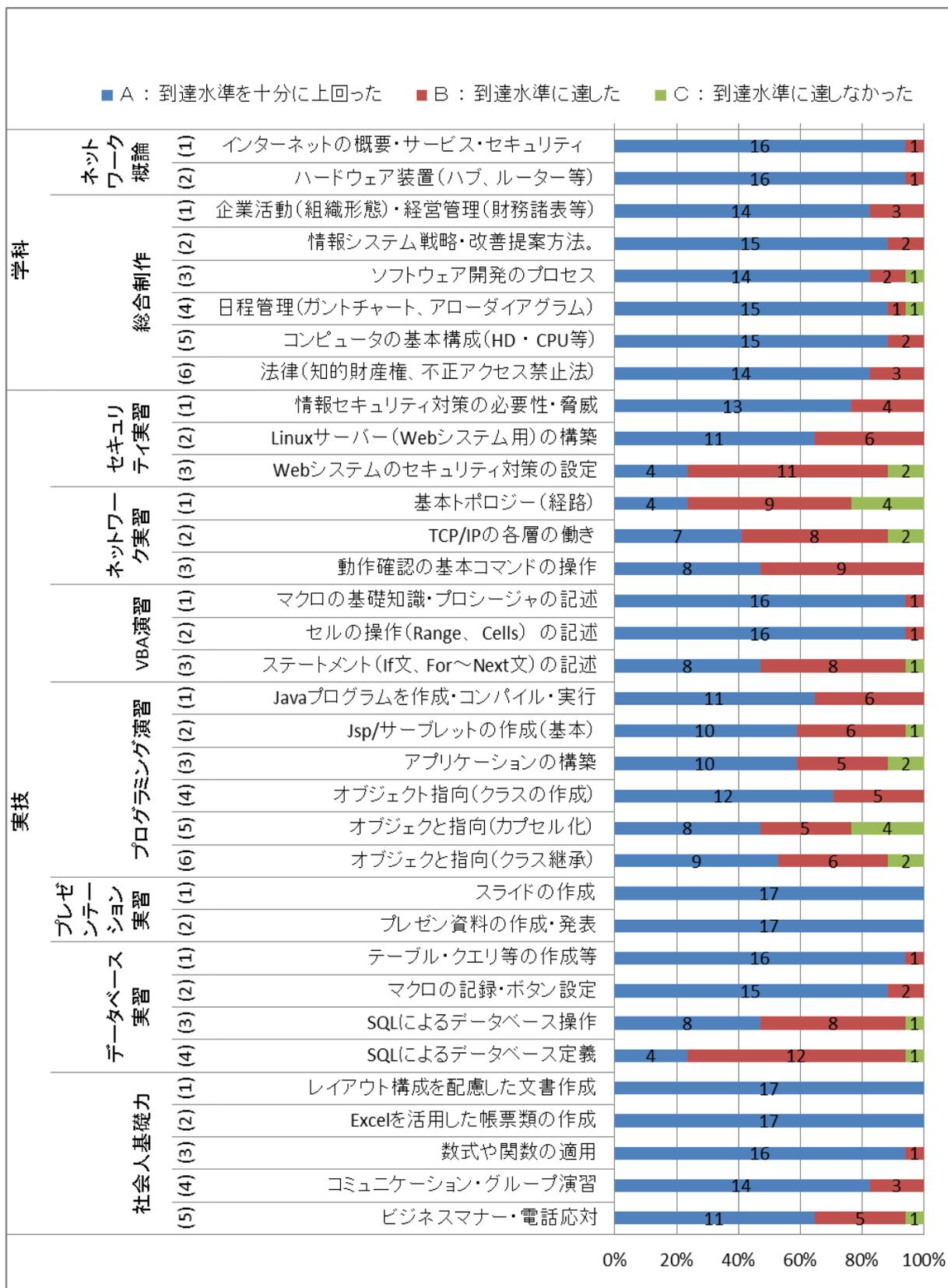
資格の名称	取得者数	合格証等の有効期限
基本情報技術者試験	1 名	期限なし
I Tパスポート	8 名	期限なし
MOS Access 2010	1 名	期限なし
MOS Access 2013	3 名	期限なし
MOS Excel 2013	3 名	期限なし
MOS Word 2013	1 名	期限なし
MOS PowerPoint 2013	1 名	期限なし
VBA Excel VBA Basic	1 名	期限なし
VBA Excel VBA Standard	1 名	期限なし

MOS→ Microsoft Office Specialist の略

・訓練修了時に付与される資格はないが、訓練中及び訓練修了後 2 か月以内に訓練に関連する試験を任意に受験し、その結果の資格取得状況を確認したものである。

⑤訓練機関が行った受講者の習得度評価結果

職業能力を証明するツールとして厚生労働省が推奨するジョブ・カード様式4-2 [評価シート]により、受講者の習得度を教育訓練機関が評価した結果は次のとおりである。



・評価のほとんどがB評価以上なので、就職に支障が出るとは考えにくい。

⑥中退、修了、就職の状況（就職率82.4%、訓練修了3か月後）

修了者数	うち女性	うち就職	就職率	中退者数		
				うち女性	うち就職	
17名	7名	14名	82.4%	3名	1名	把握せず

・中退者の発生は訓練開始4か月経過した頃であり、ほとんどの受講生が体調不良により、訓練を継続することが困難になった為である。なお、中退者は就職目的で退校したものではないために就職調査対象から外した。

修了者は17名で訓練修了時の就職内定は1名、就職率は5.9%であった。引き続き訓練実施機関からの就職支援を継続し、修了式当日に県情報産業協会及びの加盟企業8社による会社説明会の実施、求人情報の提供、月に2～3回就職状況の確認をした結果、修了3か月後の就職率は82.4%（14÷17）となった。

⑦就職先

就職先（中分類コード：業種名）	雇用形態	該当者数	備考
39:情報サービス	常用(正社員)、派遣(登録)	4名	訓練関連
08:設備工事業	派遣(常用)	1名	訓練関連
29:電気機械器具製造業	派遣(常用)	1名	訓練関連
43:道路旅客運送業	常用(正社員)	1名	
52:飲食料品卸売業	常用(正社員)	1名	訓練関連
63:協同組織金融業	季節・臨時	1名	
75:宿泊業	常用(正社員)	1名	
81:学校教育	常用(正社員を除く)	1名	訓練関連
82:その他の教育・学習支援業	常用(正社員を除く)	1名	訓練関連
97:国家公務	派遣(常用)	1名	訓練関連
98:地方公務	常用(正社員を除く)	1名	訓練関連

・17名中14名就職でき、訓練関連の職種として4名がIT関連企業、7名が一般企業の事務部門に就職できた。本人が訓練関連職場を希望しても、求人の応募段階で、実務経験がない事を理由に、プログラマとしての就職を断念した受講生も一部いた。

正社員は4名で、正社員率は29%（4÷14）であった。

就職者14名中、訓練関連職種としては情報処理会社4人（29%）、その他の訓練関連職種は、事務職等が7名（50%）であり、訓練と非関連の職種は3名（21%）となった。

・訓練実施機関のコメント

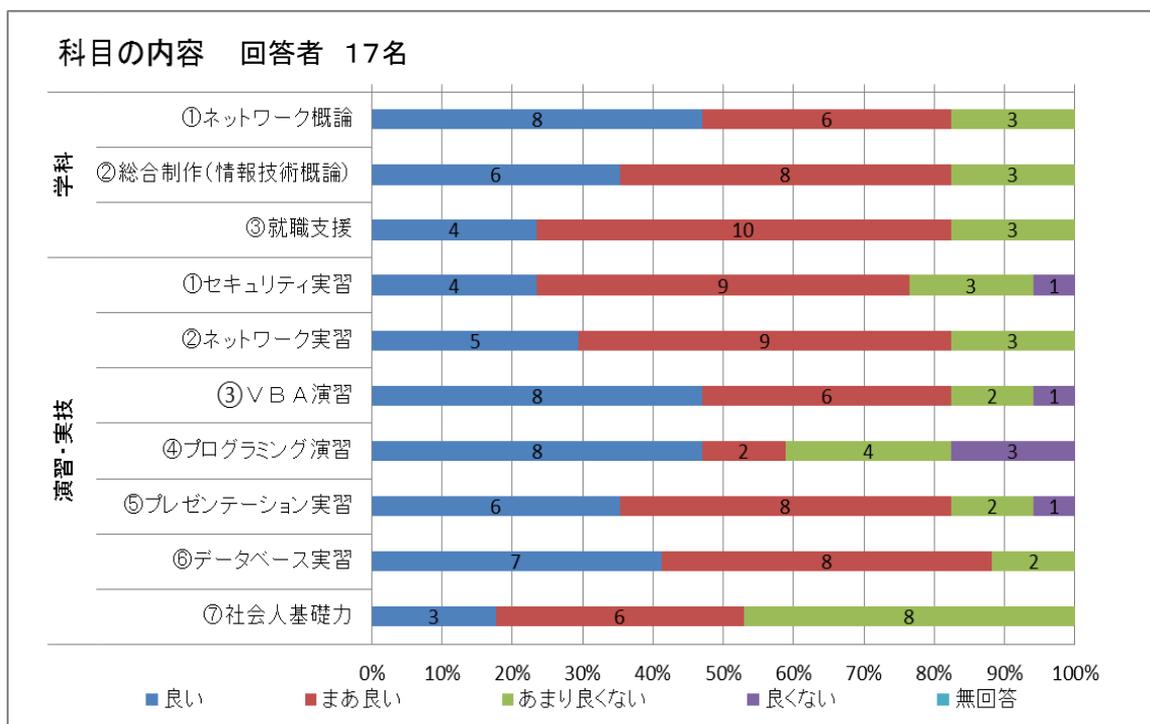
プログラマ・システムエンジニアとしての就職率は29%と低い。その理由としては、県内のIT業界でプログラマとしての職種のニーズは、30歳までと実務経験を求めている傾向があり、訓練生は年齢層・職歴も様々でIT業界未経験者も多く、実務経験を問われると諦めざるをえない状況もあった。

そこで、システムエンジニア・プログラマの職種にこだわらず、訓練で学習した、Access、Excel等のスキルを活かせる事務職での就職を検討し、求人条件や仕事内容など本人の希望に合った求人に応募するように就職支援を行なった。このように事務職で就職しても訓練との関連性はあると考える。

⑧訓練生のアンケート結果

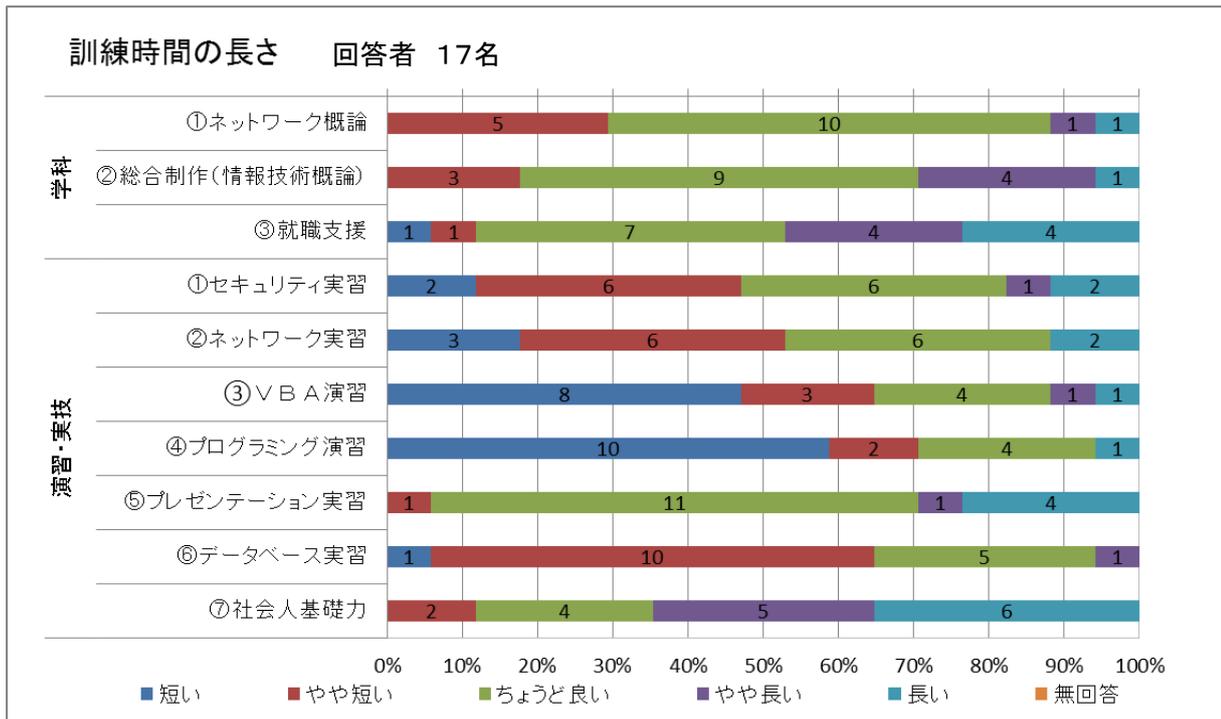
訓練修了時や修了2か月後に行なった受講者アンケートの結果は次のとおりである。

【科目の内容】



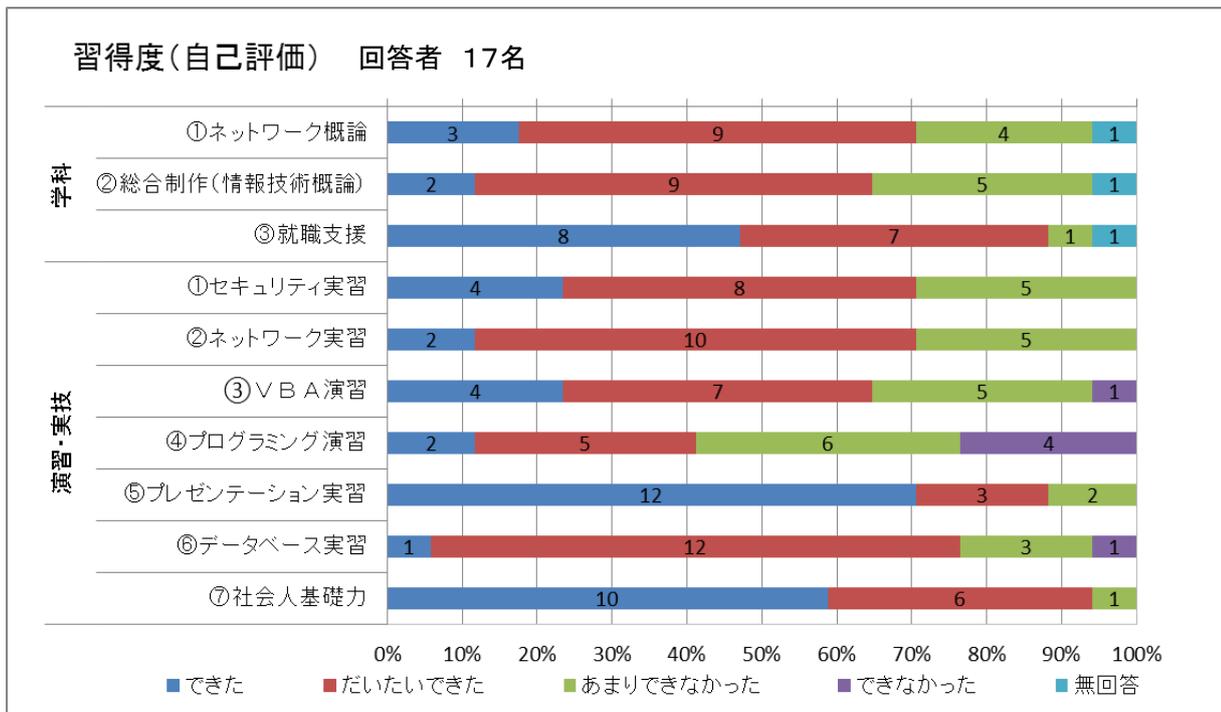
- ・概ね「まあ良い」以上の評価である。
- ・プログラミング演習、社会人基礎力（Excel、PowerPoint、Access等の理解）の評価がやや低いのは、受講生の訓練前のパソコンスキルに関して、基礎程度～IT関連企業経験者と幅広く、理解度にばらつきがあった為と考えられる。

【訓練時間の長さ】



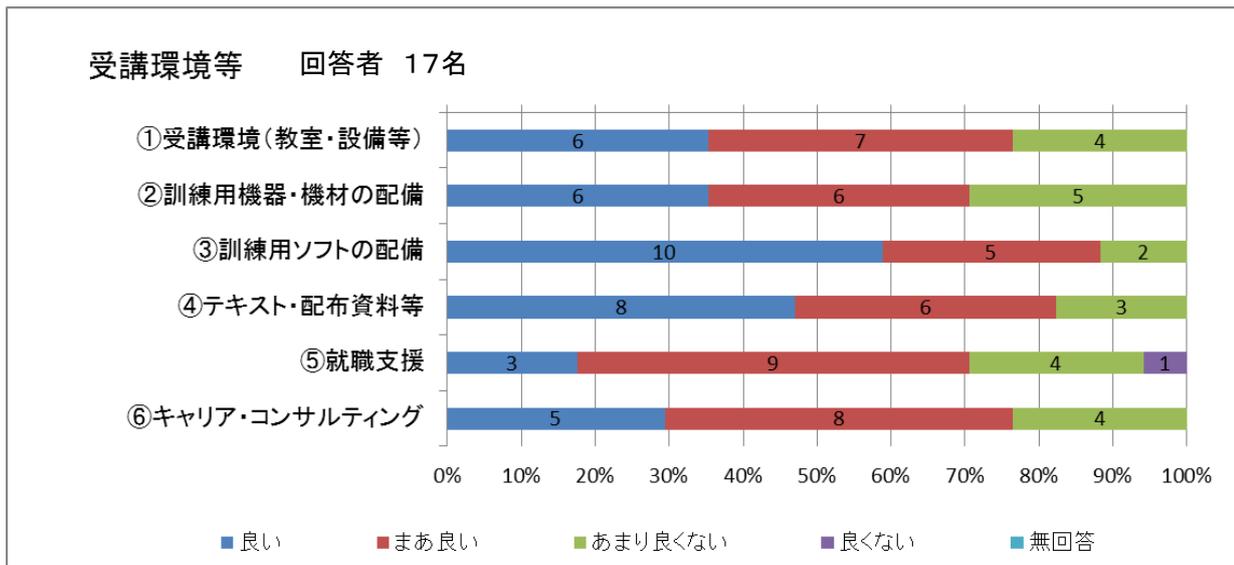
- ・概ね「ちょうど良い」「やや短い」の評価であり、特に演習・実技で時間が「短い」と評価した人が多い。
- ・この要因は、パソコンの基礎知識はあるが、プログラミングやネットワークに関して初心者的人也多く、理解に苦慮していたものと考えられる。

【習得度（自己評価）】



- ・概ね「だいたいできた」以上の評価であったが、プログラミング演習の評価がやや低い。
- ・訓練生は意欲があったが、プログラミングやネットワークの訓練が初めての人が多く、数理的な理解にばらつきあったからと考えられる。

【本訓練全体を振り返って】

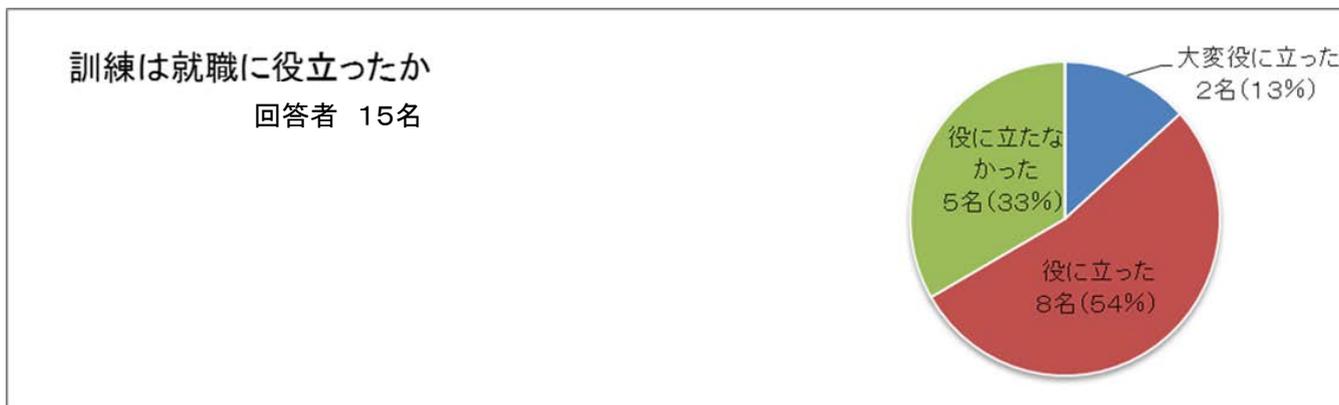


・全体に、概ね8割が「まあ良い」以上の評価であり、特に教材（テキスト、ソフト）が良かった。

・この要因は、訓練機関が県内IT業界でも多くの訓練実績があり、訓練機関独自の資料を作成し、訓練生の理解度を高める努力をしたからだと考えられる。

・その反面、社会人基礎力科目の中にあるMicrosoft Officeの訓練時間をやや少なくして、プログラミングに時間をかけて欲しいとの要望もあった。

【職業訓練の受講が就職に役立ったか】（訓練修了2ヶ月後）

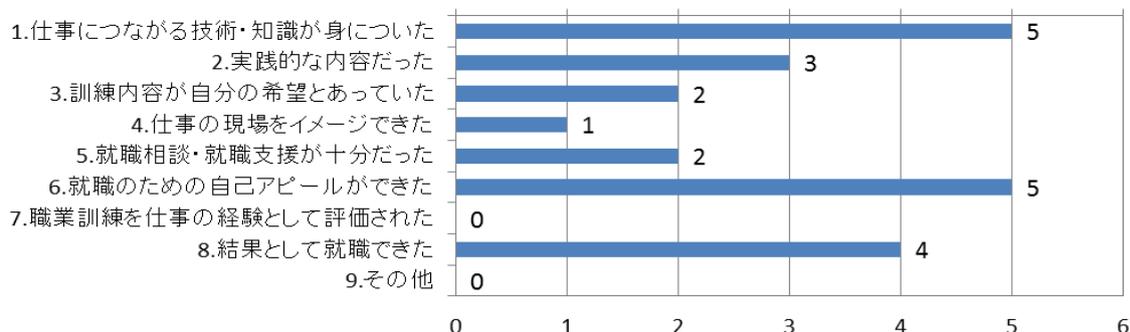


・アンケートは訓練修了者17名中15名の回答であったが、やや高い評価となった。

・役に立たなかったの中には、仕事につながる技術・知識が身につかなかった、プログラマとして就職するには、実務経験が必要な職種だった等での、求職と求人のミスマッチがうかがえるものもあった。

【大変役に立った、役に立った、と感じた内容】（複数回答可）

就職に大変役に立った・役に立ったと回答 （10名 67%）



- ・ 1. の回答数が多いことは想定できたが、複数回答可であったものの、ほとんどの人の回答数が2件以下であった。
- ・ 8. の回答は、修了1か月後の就職者分が反映されている。

(2) 試行結果を踏まえた訓練カリキュラムの見直し

① 訓練機関からの改善提案概要

- ・ プログラマ&システムエンジニア養成科にすると難易度が高いイメージがあるので、コース名を「プログラマ&システムエンジニア実務科」に変更する。
- ・ 科目内容から就職先がIT企業に限定される可能性が高いので、IT関連企業やユーザー企業のシステム運用部門にも就職し、業務改善提案できる人材になれるように訓練科目や内容を変更する。

- i プログラミングの様々な使用言語（Java、C、VB、HTML）を理解できるように「プログラミング基礎」を追加し、演習も従来通り行なう。
- ii プログラミングをするために、数理的計算法を学ぶ為「アルゴリズム基礎」を追加する。

② 訓練生からのアンケートより（要望・意見）

- ・ プログラミング演習の時間を増やし理解を深めたい。

③訓練カリキュラムの変更

科目		変更の有無	訓練時間（単位：時間）		主な見直しの概要
			検証訓練	見直し後	
学科	ネットワーク概論	有	20	0 (-20)	科目の内容が、情報技術概論 と重複する部分が多くあった為、「情報技術概論」の科目の中に含める。科目廃止。
	アルゴリズム基礎	有	0	30 (+30)	複数あるプログラミングの手順から、より効率的なプログラミングを記述するために、アルゴリズム（問題解決方法・手段・数理的計算法）の基礎知識が不可欠。科目追加。
	情報技術概論	有	200	200	（旧科目名 総合制作）情報技術概論へ名称変更
	プログラミング基礎	有	0	60 (+60)	プログラミングの基礎部分を実技のプログラミング演習から切り離し、あらたに学科の科目として新設。プログラミング言語は様々であり、身近なプログラムの例から学び、4言語（JAVA・VB・C・HTML）の相違点などプログラミング内容を初心者でも捉えやすくする。科目追加。
	就職支援	無	40	40	
	小計時間		260	330 (+70)	
実技	セキュリティ実習	有	30	0 (-30)	内容的に「プログラミング演習」に含めて相互演習とした方が良い。
	ネットワーク実習	有	60	20 (-40)	時間を短縮しても習得度の到達水準に影響は少ない。
	VBA演習	有	40	60 (+20)	プログラミング言語でもある VBA に関しては、増加した 20h で演習を追加し、一般的に使用頻度の高い Excel に関して、業務の効率化につながるより高度なスキルを習得する。
	プログラミング演習	有	150	150	プログラミングの基礎部分を切り離し、別科目（学科【プログラミング基礎】：60h）として新設した。これにより、実技の演習時間を増加させ、プログラミングのより実務的な演習（開発の企画・顧客との打合せ・設計）のシミュレーションを取り入れることにより、訓練と実務につながりを持たせ、プログラマの実務のイメージを掴みやすくする。

	プレゼンテーション実習	無	30	30	
	データベース実習	有	80	60 (-20)	Access のマクロ登録・データベースシステムの作成を加える。SQL システムの開発は、プログラミングとの相互関連があるため、プログラミングの演習に含めることで時間を短縮。
	社会人基礎力	無	49	49	
	小計時間		439	369 (-70)	
合計時間			699	699	

3 ポリテクセンター福島が行なった支援

検証訓練を2コース実施するにあたり、訓練実施機関へ次のような支援を行なった。

- ① 訓練生募集開始前には、訓練を円滑に実施できるよう、訓練実施機関担当者向けに募集広報、募集受付、選考の手順を説明した。
募集開始後、入所式前までに、訓練コースの運営、就職支援の実施計画、訓練生への対応、雇用保険等各種手続き方法を資料で説明を行った。
- ② 入所式にはポリテクセンター福島の職員が出席し、訓練生に対し離職者訓練の目的及び各種手続き等を説明し、訓練の心構えや就職意欲を喚起した。
- ③ 各訓練機関には、月2回（月初め、月後半）巡回指導として訪問し、出席状況、訓練状況、就職支援状況の確認を行なった。その中で、訓練実施機関担当者の個別相談に応じると共に、急な相談に対しても可能な限り迅速に対応し課題解決に努めた。
特に、出席状況は常に把握し、欠席が目立ったり、訓練意欲の低下が見えた訓練生への指導状況を訓練実施機関と情報を共有し、訓練生のモチベーション向上への助言は訓練実施機関から行なった。
- ④ アンケート調査結果によって得られた訓練生の習得度や要望事項は、可能な限り共有し、改善すべき事項があれば訓練実施機関に対処するよう要望し、結果を確認してきた。
- ⑤ 就職しやすい環境づくりとして、プログラマ&システムエンジニア養成科ではコンソーシアム委員の所属する福島県情報産業協会に働きかけて、会員企業による会社説明会の実施の協力要請を行なった。介護福祉士実務者研修科では訓練修了後に訓練生に対し、福島県社会福祉協議会主催の介護サービス会社説明会のチラシや文書を訓練実施機関から受講生へ送付し積極的に参加するよう働きかけた。

V 本事業の成果物について

本事業の成果物として、コンソーシアムにおいて開発した離職者向け訓練コースが離職者訓練のカリキュラムとして効果的な内容となっているか、委託訓練の実施を通じて検証（上記Ⅳに記述）し、その結果を踏まえてモデルカリキュラムとして取りまとめた。

1 介護福祉士実務者研修科

当訓練科は、介護福祉士実務者研修に加え障害者支援サービス研修と普通救命講習も取入れ、介護サービスで日常生活介護と非日常である外出支援にも対応して介護サービス全般のQ. O. L（クオリティ・オブ・ライフ）の維持向上を目指し、介護福祉士実務者研修をブラッシュアップした県内初のカリキュラムを設定し、就職先を幅広く選択できる訓練コースとした。

就職者は、雇用の形態は様々であるものの全員が介護施設への就職であり、訓練関連就職率100%であったことから、地域のニーズを踏まえた離職者向けの職業訓練として相応しいことが検証された。

当訓練科の検証結果としては、6か月の訓練に対し、訓練生や訓練実施機関から、訓練内容は好評であったものの、内容が詰め込み過ぎ、障害者向けサービス研修のうち強度行動障害者支援者養成研修（知的・精神）は介護初心者には難易度が高い、との意見があった。また、訓練生から就職支援の時間がやや少ないとの感想があった。

これらにより、本訓練で実施したカリキュラムの一部を修正すれば、モデルカリキュラムとして活用できるものと判断し、介護職の即戦力として就職先から期待される人材育成のための訓練コースになるものとする。

（1）学科

介護福祉士実務者研修、障害者向けサービス研修等は法律等に基づく研修であり、科目内容の変更はできない。しかし、訓練実施機関の裁量で若干時間増加は可能である。

今後は、障害者向けサービス研修3つの内、強度行動障害者支援者養成研修（知的・精神）を外して、初心者でも理解できる2つ（視覚、全身）の研修とする。その時間減少分を、医療的ケア科目実技の時間を増やすことや、就職支援でキャリアコンサルタントの時間を増やした方が訓練生の就職が効果的になる。

（2）実技

外部の施設で職場実習などを体験することや、介護福祉士実務者研修の内、医療的ケアの実技（たん吸引、経管栄養等）の時間を増やして、より実践的に学び、訓練と就職後の業務との落差を少なくする方が効果的になる。

（3）就職支援

就職支援については、訓練開始時に受講者の経歴の棚卸や就職への意識付けを行い、ジョブカードを活用したキャリアコンサルティングを通し、就職者全員が介護職に就いたので効果はあったが、キャリアコンサルタント等の時間が少し不足気味であったので、若干時間を増やした方が訓練生の就職活動に役立つことに

なる。

(4) 関連資格等

訓練修了時に授与される修了証は以下のとおりである。

- ① 介護福祉士実務者研修
- ② 外出介護従事者養成研修・全身性課程
- ③ 同行援護従事者養成研修・一般課程（視覚）
- ④ 強度行動障害支援者養成研修・基礎研修（知的・精神）
- ⑤ 強度行動障害支援者養成研修・実践研修（知的・精神）
- ⑥ 普通救命講習Ⅰ

修了証が授与されることで、介護サービスの幅広い実務に励むことが期待される。

2 プログラマ&システムエンジニア養成科

当訓練科は、県情報産業協会からも期待されるレベルの高い訓練であり、就職後は数年の実務経験を経てシステムエンジニアの中位（簡単なシステム設計）レベルの人材育成を目指しているが、本訓練では、下位（簡単なプログラミング）ができるIT技術者育成のための県内初のカリキュラムであった。応募率125%、入所率100%、就職者14名で就職率（訓練修了後3か月後）82.4%、就職者14名中、IT関連の職務に就職したのは4名（29%）、訓練と関連のある職務に就職したのは7名（50%）、訓練と非関連の職種は3名（21%）となった。

受講生には、PC操作はできるがプログラミングに関しては、初心者からIT業界経験者までとITに関する知識技量に差があり、訓練の理解度・習得度にばらつきがでた。アンケートによる受講生からの意見については、プログラミングの基礎をもっと学びたい、演習時間を増やして欲しいといった内容が比較的多く寄せられた。

検証訓練の結果を踏まえ、モデルカリキュラムでは初心者でもよりスムーズにプログラミングの概要を掴み、簡単なプログラミングができるよう、時間を削減しても習得度に支障のない科目と時間を調整し、プログラミング基礎及びプログラミングを記述するうえで重要なアルゴリズム基礎の2科目を追加する。

それらにより、プログラマ・システムエンジニアの基礎的人材育成や、企業内であらゆる業務改善提案ができる情報化リーダーとしての活躍も期待できる6カ月の訓練コースになるものとする。

(1) 学科

プログラミングについて基礎科目を設けることにより、プログラミングの概要を掴みやすくするほか、IT業界未経験者と実務経験者での理解度のばらつきを少なくし、プログラミングの実技の授業がスムーズに進むようにしていく。

(2) 実技

企業内で扱うソフトについては、事務部門～システム設計に至るまで様々でありプログラミング以外に、Officeソフトに関する知識も必要不可欠であることから、社会人基礎力（実技）にてMicrosoftのOffice全般（Word・Excel・Access・PowerPoint）を応用レベルで習得する。

また学科で強化したプログラミングの基礎を踏まえ、自力で簡単なプログラミング記述ができるまでのカリキュラムとする。

(3) 就職支援

訓練修了時点でのアンケート調査では、就職の際の面接や自己アピールに「自信がついた」が過半数を超え、就職支援の効果は現れ、積極的な就職活動に結びついた。しかし、IT業界未経験者の訓練生がプログラマの求人へ応募の際、実務経験（3年程度）を求められたり、スキル不足の為応募を断念せざるをえない場合があった。求職と求人のミスマッチもあったので、今後は就職先をIT企業以外でも訓練で得た技術を活かして業務改善提案ができる事務部門での就職があることの指導や、訓練後にプログラマとして実務経験を積んでいく方法を教えるような支援が必要である。

(4) 関連資格等

受験は任意であるが、訓練により取得可能な資格については以下を想定した。

- ① 基本情報技術者試験
- ② ITパスポート試験
- ③ MOS Word・Excel・PowerPoint・Access
- ④ Excel VBA Basic・VBA Standard

特に基本情報技術者試験は年2回の試験日程を考慮した訓練計画を設定することにより、訓練生のモチベーションを高めることができる。

なお、コースごとに①委託訓練モデルカリキュラム、②科目の内容・細目シート、③使用教材リストに整理し、別添のとおり資料集としてとりまとめた。

資料集

1 介護・福祉医療分野

「介護福祉士実務者研修科」関連資料一覧

- 資料1-1 委託訓練モデルカリキュラム
- 資料1-2 科目の内容・細目シート
- 資料1-3 使用教材リスト

2 IT・情報デザイン分野

「プログラマ&システムエンジニア養成科」関連資料一覧

- 資料2-1 委託訓練モデルカリキュラム
- 資料2-2 科目の内容・細目シート
- 資料2-3 使用教材リスト

委託訓練モデルカリキュラム

資料1-1

訓練科名	介護福祉士実務者研修科		就職先の 職務	在宅介護サービス業務 福祉施設内介護業務
訓練期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日 (6 か月)			
訓練目標	①介護サービス(施設・在宅)において必要となるマナーや介護の知識、技能等を取得する。 ②介護の現場で即戦力となる人材を育成する。 ③訓練修了後は、次の修了証(資格)が取得できる。 介護福祉士実務者研修、普通救命講習Ⅰ、障害者介護サービス研修である外出介護従業者養成研修(全身性課程)、同行援護従事者養成研修(視覚課程)			
仕上がり像	幅広い利用者様に対して、基本的なサービスを提供することができ、非日常的に発生する状況(救命救急等)にも冷静に対応することができる人材を育成する。 また、今後の制度改正や新たな課題・技術・知見を自ら把握し、柔軟に対応することができる力を身に付ける。			
訓練 の 内 容	科目	科目の内容		時間
	・開講式等	開講式、オリエンテーション、修了式		—
	・職業能力基礎講習	職業意識、ビジネスマナー、安全衛生、健康管理、コミュニケーションの重要性		15
	・就職支援	求人情報の提供・見方、キャリアコンサルティング(ジョブ・カード使用)、履歴書の作成支援、面接指導・模擬面接、介護業界の労働環境・賃金体系、介護施設毎の特徴、ハローワーク・機構・受託機関との連携支援		30
	・人間の尊厳と自立	生活支援の考え方、ノーマライゼーション、権利擁護		6
	・社会の理解Ⅰ・Ⅱ	介護保険制度、生活と福祉、各国の介護と福祉の制度、障害者総合支援法、介護実践に関連する諸制度		42
	・介護の基本Ⅰ・Ⅱ	介護福祉士制度、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開、介護福祉士の倫理、介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における安全の確保とリスクマネジメント、介護職員の健康管理と労働法規		36
	・コミュニケーション技術	コミュニケーションの基本的理解、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション		24
	・介護過程Ⅰ	介護過程の基礎知識・展開・チームケア		24
	・発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ	老化に伴うこころとからだの変化、老年期の発達・成熟と心理、高齢者に多い症状・疾病等と留意点		36
	・認知症の理解Ⅰ・Ⅱ	認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本、医学的側面からみた認知症の理解、認知症の人や家族への支援の実際		36
	・障害の理解Ⅰ・Ⅱ	障害者福祉の理念、医学的側面からみた障害の理解、障害(児)者への支援の実際		36
	・こころとからだのしくみⅠ	介護に関するこころとからだのしくみの基礎的理解(移動、入浴、排泄、口腔、睡眠)、死にゆく人のこころとからだのしくみ		24
	・医療的ケア	医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引(知識、手順)、経管栄養(知識、手順)		63
	・全科目修了テスト	修了テスト※科目修了毎にも科目修了テストを実施		3
・外出介護従業者養成研修	全身性課程		16	
・同行援護従事者養成研修	視覚課程		20	

訓練の内容	実技	・生活支援技術Ⅰ・Ⅱ	生活支援とICF、ボディメカニクスの活用、介護技術の基本、環境整備、福祉用具活用等の視点、ターミナルケア、介護技術の評価	60		
		・介護過程Ⅱ・Ⅲ	利用者の状態を設定した事例展開と応用力、観察・安全確保、介護技術の評価	84		
		・こころとからだのしくみⅡ	からだのしくみ・心理・認知機能を踏まえた介護のアセスメントと観察、介護の連携	66		
		・医療的ケア	喀痰吸引・経管栄養の演習	30		
		・普通救命講習Ⅰ	応急手当の重要性、AEDの理解、使用	3		
		・職場実習	職場実習	54		
訓練時間総合計		学科	411	実技	297	708
主要な機器設備 (参考)		実習用モデル人形、人体骨格模型、成人用ベッド、スライディングボード、車いす、入浴用具一式、ストレッチャー、排泄用具一式、視聴覚機器、吸引装置一式、経管栄養用具一式、吸引訓練モデル、経管栄養訓練モデル、心肺蘇生訓練用機器一式、人体解剖模型				

科目の内容・細目シート

科目	職業能力基礎講習	時間	15	
到達水準	社会人必須の職業意識やコミュニケーション能力、チームワーク力を深め、人間力を高めることができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
職業意識	1 介護施設の概要について、現在の介護業界の現状について	3		
ビジネスマナー	1 正しい敬語の使い方、クッション言葉、電話対応、面接時および就業時のマナーについて	3		
安全衛生、健康管理	1 介護職における安全衛生および健康管理について	6		
コミュニケーションの重要性	1 コミュニケーションの重要性をグループワークを通して理解する。	3		
		合計	15/15	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	就職支援	時間	30	
到達水準	研修修了後の就業へ向けての意欲を高めることができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
求人情報の提供・見方	1 ハローワーク求人票の検索方法・見方の指導	2		
キャリアコンサルティング	1 研修中の相談、研修修了後の就業についての面談	10		
履歴書・面接指導	1 履歴書の作成支援、面接指導、模擬面接、ジョブカードについての説明および作成支援	9		
職業人講話	1 介護業界の労働環境・賃金体系・キャリアパス、介護施設毎の特徴について 3時間×3回(人事担当者1名、弊社修了生2名)	9		
		合計	30	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	人間の尊厳と自立	時間	6	
到達水準	・尊厳の保持、自立、自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護 権利擁護などについて、介護の基本的理念を理解している。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第1章人間の尊厳と自立 第1節 生活支援の考え方	1 ニーズとは何かを理解する。 2 自立とは何かを理解する。 3 自立支援とは何かを理解する。	2		
第2節 ノーマライゼーション その歴史、概念、課題	1 ノーマライゼーションの考え方を理解する。 2 ノーマライゼーションの意義と影響 3 ノーマライゼーションの理念の課題	2		
第3節 権利擁護	1 個人の尊厳の確保と権利擁護の理念を理解する 2 権利擁護のための制度を理解する。 3 審査請求及び苦情申し立ての制度を理解する。 振り返り・修了テスト	2		
		合計	6/6	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	社会の理解 I-1	時間	6	
到達水準	・介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第2章 介護保険制度 第1節 介護保険制度の概要	1 介護保険の概要を理解する。 2 用語と概念について整理する。 3 介護サービスの利用のルールについて学習する 4 「保険」のメカニズムについて学習する。 5 介護保険事業計画について学習する。 6 介護保険に関する苦情と不服申し立てについて理解を深める。 7 罰則規定について学習する。	1		
第2節 要介護認定と ケアマネジメント	1 要介護認定について理解する。 2 ケアマネジメントの内容について学習する。 3 ケアプランについて全体像を把握する。 4 ケアマネジャーの仕事について理解する。	1		
第3節 介護サービスの種類と 内容	1 居宅サービスについて学習する。 2 地域密着型サービスについて学習する。 3 施設サービスについて学習する。 4 居宅介護支援（ケアマネジメント）について学習する。 5 その他 6 介護予防サービスについて学習する。 7 市町村特別給付を理解する。 8 地域支援事業の内容を理解する。	1		
第4節 介護サービス事業者 と施設	1 事業者・施設の分類と種類について理解する。 2 事業者・施設の指定について学習する。 3 居宅サービス事業者（介護予防サービス事業者）について理解を深める。 4 地域密着型サービス事業者について知識を深める 5 施設（介護保険施設）について知識を深める。 6 居宅介護支援事業者及び介護予防支援事業者について理解を深める。 7 介護サービスに関する情報の公表	1		
		合計	4/6	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	社会の理解 I -2	時間		
到達水準				
科目の内容	内容の細目		訓練時間	
第5節 介護報酬	1 介護報酬とは何かを理解する。 2 介護報酬のしくみ 3 介護報酬の柔軟性について理解を深める。 4 2012（平成24）年4月1日の介護報酬改定のポイントをおさえる。		0.5	
第6節 介護財源	1 給付財源について理解を深める。 2 財政安定化のしくみについて学習する。		0.5	
第7節 介護保険は、なぜ つくられたのか	1 介護保険制度創設の背景を確認する。 2 新しい発想としくみについて理解する。 3 介護保険制度の積み残された課題について理解を深める。		0.5	
第8節 介護保険の実施状況	1 介護保険の実施状況と今後の課題について確認する。 2 介護保険制度の見直しと改正の概要を学習する。 振り返り・修了テスト		0.5	
使用する機械 器具等 備考			合計 2/6	

科目の内容・細目シート

科目	社会の理解 II-1	時間	36	
到達水準	・家庭、地域、社会との関連から生活と福祉を捉える事ができる。			
	・社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。			
	・各国の福祉施策を見ていく事で、日本における社会福祉との差異（課題）についての理解を深める。			
	・障害者総合支援法制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担専門職の役割を理解し、利用者等に説明ができる。			
	・医療制度や生活保護制度、成年後見制度など、介護実践に関連する制度の概要を理解している。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第3章 生活と福祉 第1節 生活の定義	1 生活者とは何か理解する。 2 生活における適応技術について理解する。	1		
第4章各国の介護と福祉の制度 第1節家族介護から社会介護へ	1 介護問題への注目 2 社会介護とは何か、その要因（背景）について理解する。	2		
第2節海外の福祉と日本の現状	1 海外の社会福祉と日本の現状について理解する。	3		
第5章障害者総合支援法 第1節障害者総合支援法と 障害福祉サービスの概要	1 障害福祉サービスに関する制度改革の変遷を把握する。 2 障害者総合支援法と障害者自立支援サービスの概要を学習する。	5		
第6章介護実践に関連する諸 制度 第1節 医療保険	1 医療保険制度の理念とあゆみを確認する。 2 医療保険制度の概要を学習する。 3 後期高齢者医療制度について理解を深める。 4 医療供給体制を概観する。	3		
第2節 年金制度	1 年金制度の理念とあゆみを学習する。 2 年金制度の概要を把握する。 3 年金の支給水準を学習する。 4 2004（平成16）年の制度改正の概要を理解する。	3		
第3節 所得保障	1 労働者災害補償保険（労災保険）について学習する。 2 雇用保険について理解を深める。 3 社会手当について理解を深める。	3		
		合計	20/36	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	社会の理解Ⅱ-2	時間		
到達水準				
科目の内容	内容の細目		訓練時間	
			学科	実技
第4節 生活保護	1 生活保護の理念について理解を深める。 2 生活保護のしくみを知る。 3 保護基準の概要について学習する。 4 保護施設について学習する。 5 被保護者の権利・義務を理解する。 6 保護の実施について理解する。 7 自立支援対策について学習する。 8 生活福祉資金貸付制度を理解する。		4	
第5節 児童家庭福祉	1 児童家庭福祉の背景と動向を理解する。 2 児童家庭福祉の理念を理解する。 3 児童家庭福祉の定義について理解を深める。 4 児童家庭福祉の体制を学習する。		4	
第6節 住宅および居住政策	1 住宅・居住政策の理念を理解する。 2 住宅・居住政策の動向を把握する。 3 公営住宅の役割を理解する。 4 高齢者等のための住宅・居住制度を理解する。 5 その他の住宅対策を学習する。 6 福祉政策と住宅・居住政策を理解する。		4	
第7節 成年後見制度	1 成年後見制度制定の意義を理解する。 2 成年後見制度制定の概要を理解する。 3 任意後見制度の概要と市民後見人を理化する。 振り返り・修了テスト		4	
			合計	16/36
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	介護の基本 I	時間	12	
到達水準	・介護福祉士制度の沿革、法的な定義、業務範囲、義務等を理解している。			
	・個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方をふまえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。			
	・介護福祉士（介護職員）の職業倫理、身体拘束禁止、虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守する。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 介護福祉士制度	介護福祉士制度とは	1		
(2) 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	1 尊厳を支えるケア	6		
	2 ICF—概念、歴史（考え方の変遷）、なぜ大切なのか			
	3 ICFのツールの使い方、実践の方法			
	4 リハビリテーションの理念、基礎			
	5 リハビリテーション医療の過程			
	6 リハビリテーションチーム職種との連携			
	7 介護予防とリハビリテーション			
(3) 介護福祉士の倫理	1 倫理と尊厳の理解	5		
	2 守秘義務・個人情報保護と活用、情報開示			
	3 契約とサービス			
	4 サービス実施時の留意点			
	5 身体拘束の禁止—考え方、重要性			
	6 虐待の防止—考え方、重要性			
	1 修了評価テスト			
		合計	12/12	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	介護の基本Ⅱ	時間	24	
到達水準	・介護を必要とする高齢者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。			
	・チームケアを実践するために必要な事柄について理解できる。			
	・リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。			
	・介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 介護を必要とする人の生活の理解と支援	1 生活環境の捉え方 2 すべての人を対象とする地域生活支援 3 地域アセスメントの技術と方法	10		
(2) 介護における連携	1 チームケア 2 連携とチームケア	5		
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1 リスクマネジメント	4		
(4) 介護職員の健康管理と労働法規	1 介護職員の健康管理、ストレスマネジメント 2 介護職員の労働の権利と制度	5		
	1 修了評価テスト			
		合計	24/24	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	コミュニケーション技術-1	時間	24	
到達水準	・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントと技法について事例に基づいて説明できる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第1章 コミュニケーションの基本的理解				
第1節 コミュニケーションを考える。	1 コミュニケーションとは何かを理解する 2 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて理解する	2		
第2節 他者を理解する・自己を理解する。	1 他者を理解する 2 自己を理解する	2		
第3節 信頼関係を築くための基本的姿勢	1 「信頼関係を築く為の基本姿勢」のポイント	2		
第4節 適切なコミュニケーションのために面接技術	1 適切なコミュニケーションの基本事項をおさえる 2 場面構成のための技法を学ぶ 3 具体的な面接技法を学ぶ	2		
第5節 コミュニケーション手段の障害	1 言語障害について理解する 2 視覚障害について理解する 3 聴覚障害について理解する 4 知的障害について理解する 5 認知症について理解する 6 精神障害について理解する 7 障害のある利用者とのコミュニケーションについて理解する。	2		
第6節 コミュニケーションと信頼関係	1 専門職が行うコミュニケーションとは何かを理解する。	2		
第7節 相談援助とは	1 介護職員が行う相談とは何かを理解する 2 介護職員が行う援助とは何かを理解する 3 対人援助専門職と利用者の援助関係の側面について理解する。	2		
第2章 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション				
第1節 高齢者とその家族の心理の理解	1 高齢者の心理を理解する 2 記憶とは何かを理解する 3 知能とは何かを理解する 4 人格とは何かを理解する 5 老年期への適応について理解する 6 認知症高齢者の心理について理解する 7 介護場面における留意点 8 家族の心理を理解する	2		
		合計	16/24	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	コミュニケーション技術-2	時間		
到達水準				
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第2節障害児（者）とその 家族の心理の理解	1 障害児（者）の心理を理解する 2 障害者の人間関係と家族の理解 3 中途障害児（者）の家族の心理の理解	2		
第3節 こころのケアの基礎	1 日常生活における心的安定、活性化の視点、技術を理解する。 2 「寄り添う」ことの意義を理解する 3 利用者が感情表現出来る様な介護しよくの働きかけを知る。 4 利用者のこころのペースや居場所の尊重など、自立支援への配慮を理解する 5 治療的関わりの可能性を知る 6 ターミナル・死の受容について理解する	2		
第4節 家族支援	1 介護に関わる家族について理解する 2 家族への支援について理解する	2		
第3章介護におけるチームの コミュニケーション				
第1節 チームケアを実践 するために	1 チームとコミュニケーション 2 報告・連絡・相談 3 記録 4 カンファレンスの意義と目的について理解する	1		
第2節 記録の意義と重要性	1 記録の必要性について知る 2 記録の方法について知る	1		
	振り返り・修了テスト			
		合計	8/24	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	介護過程 I	時間	24	
到達水準	・「介護過程」の意味を説明できる。			
科目の内容	内容の細目		訓練時間	
(1) ケアマネジメントと介護過程 (2) 介護の専門性を活かした介護過程	1 介護過程とチームケア 2 チームケアにおける介護職の役割		6	
	1 介護過程の理解 2 介護計画におけるアセスメント 3 介護計画における「課題」の明確化（支援課題の決定） 4 個別介護計画の立案と実施にいたるまで 5 個別介護計画に基づくサービス提供の実施 6 個別介護計画における評価 7 介護職同士のチームケア 8 演習 9 修了評価テスト		18	
	合計		24/24	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	発達と老化の理解 I	時間	12	
到達水準	・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴について説明できる。			
	・高齢者の生理的な変化に伴う基本的な生活上の留意点（睡眠や休息等）について説明できる。			
	・老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつなど）と支援の留意点について理解している。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第1章 老化に伴うこととからだの変化				
第1節 加齢の生理学 高齢者の身体的特徴・精神的特徴と睡眠	1 高齢者の身体的特徴を理解する。 2 高齢者の精神的特徴を理解する。 3 睡眠とは何か、休息とは何かを理解する。	3		
第2章 老年期の発達・成熟と心理				
第1節 老化とは	1 加齢と老化を理解する。 2 生涯発達について理解する。	3		
第2節 老年期の発達課題	1 高齢者を理解する。 2 老年期の発達課題を理解する。	3		
第3節 高齢者の心理的課題と支援の留意点	1 エイジズムについて理解する。 2 老性自覚を理解する。 3 加齢に伴う高齢者の身体的、社会的機能の変化と心理的課題を理解する。 4 老いの受容および適応とその支援について理解を深める。			
第4節 人間の成長 ・発達の理解	1 人間の発達段階について理解する。 2 発達課題を理解する。	3		
	振り返り・修了テスト			
		合計	12/12	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	発達と老化の理解Ⅱ	時間	24	
到達水準	・高齢者に多い疾病・障害などと支援の留意点について理解している。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第3章高齢者に多い症状・疾病等と留意点 第1節高齢者の疾病と食事・栄養管理	<ol style="list-style-type: none"> 1 糖尿病における食事対応を理解する。 2 消化器系疾患における食事対応を理解する。 3 貧血における食事対応を理解する。 4 褥瘡における食事対応を理解する。 5 認知症への食事対応を理解する。 6 骨粗鬆症における食事対応を理解する。 7 便秘における食事対応を理解する。 8 肺炎における食事対応を理解する。 9 老人性白内障における食事対応を理解する。 10 終末期ケアにおける食事対応を理解する。 	3		
第2節 健康チェックとバイタルサイン	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康チェックの基本を理解する。 2 バイタルサインを理解する。 	3		
第3節感染症の種類と特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の種類と特徴を理解する。 2 感染症の分類を把握する。 3 感染症の発生要因を理解する。 4 感染症の予防対策を確認する。 	3		
第4節高齢者に起こりやすい感染症	<ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の現状と予防対策を理解する。 	3		
第5節呼吸器症状と食中毒の疾病	<ol style="list-style-type: none"> 1 呼吸器疾患に特徴的な症状を理解する。 2 消化器疾患に特徴的な症状を理解する。 	6		
第6節その他の訴え・症状と疾病	<ol style="list-style-type: none"> 1 痛みについて理解する。 2 めまいについて理解する。 3 食欲不振について理解する。 4 しびれについて理解する。 5 口腔内違和感について理解する。 6 浮腫について理解する。 7 倦怠感・脱力感について理解する。 8 悪心・嘔吐について理解する。 	6		
	振り返り・修了テスト			
		合計	24/24	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	認知症の理解 I	時間	12	
到達水準	・認知症ケアの取り組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。			
	・認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第4章 認知症ケアの理念 第1節 認知症介護の基本と必要な観察・見守り	1 認知症介護の変革について理解する。 2 人間らしく生きていく事への支援について理解を深める。	3		
第5章 認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本 第1節 認知高齢者の心理的特徴	1 BPSDと認知症高齢者の援助の基本について理解する。	3		
第2節 認知症の症状と障害の考え方	1 認知症という「障害」を理解する。 2 適応障害の原因などによる主な分類を理解する。 3 適応障害の病名などによる主な分類を理解する。 4 老年期における3つのタイプの適応障害を理解する。 5 老年期におけるその他の精神障害を理解する。	3		
第3節 問題とされる行動の心理的背景と対応—妄想、うつ、攻撃的言動、不潔行為	1 認知症の周辺症状について概要を理解する。 2 行動障害の原因と具体的対応について理解する。 3 脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症への対応の違いを理解する。 4 人口構造の変化と介護職としてのケアのあり方を理解する。	3		
	振り返り・修了テスト			
		合計	12/12	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	認知症の理解Ⅱ	時間	24	
到達水準	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違いについて説明できる。 ・認知症の基本障害と二次的に発生している問題とみなされがちな行動等の基本的特性、及びそれに影響する要因について説明できる。 ・認知症と間違えられやすい症状について説明ができる。 ・家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて説明でき、さらに専門家として、家族との関わり方、対応について、事例に基づいて説明できる。 			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第6章医学的側面からみた 認知症の理解				
第1節認知症とは一年齢相応の物忘れと疾患としての認知症の区別	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の老化について理解する。 2 認知症とは何かを理解する。 3 高齢者の記憶の特徴を理解する。 4 認知症と間違われやすい症状について理解する。 	3		
第2節認知症の中核症状と周辺症状	<ol style="list-style-type: none"> 1 認知症の中核症状について理解する。 2 認知症の周辺症状について理解する。 	3		
第3節認知症を引き起こす原因疾患と発生誘因 脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症	<ol style="list-style-type: none"> 1 認知症の診断基準について理解する。 2 脳血管性認知症について理解する。 3 アルツハイマー型認知症について理解する。 	3		
第7章認知症の人や家族への支援の実際				
第1節在宅認知症高齢者をかかえる家族の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1 認知症高齢者の状況について理解する。 2 認知症高齢者の介護者がかかえる問題について理解する。 	3		
第2節認知症高齢者の家族のケア	<ol style="list-style-type: none"> 1 認知症高齢者の支援方針、家族のアセスメントについて理解する。 	3		
第3節社会資源の活用	<ol style="list-style-type: none"> 1 事例演習 5つ 	6		
第4節認知症介護と医療・保険・福祉サービス	<ol style="list-style-type: none"> 1 認知症状高齢者と家族を支える各機関の役割と活用方法について理解する。 2 在宅での各種サービス機関との連携について理解する。 3 多職種や多機関が連携するための必要条件について理解する。 4 認知症高齢者が生活する施設の目的、特徴等について理解する。 5 認知症高齢者のケアを変えるセンター方式について理解する。 6 認知症高齢者を支えるその他の保健福祉サービスについて理解する。 7 地域で認知症高齢者を支える見守りネットワークについて理解する。 8 認知症高齢者に対するチームケアの意義と原則、方法論について考察する。 	3		
	振り返り・修了テスト			
		合計	24/24	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	障害の理解 I	時間	12	
到達水準	・ 障害者（とくに高齢者）が利用できる障害者福祉制度を列挙できる。			
科目の内容	内容の細目		訓練時間	
第8章障害福祉の理念 第1節障害者福祉制度・施策 の背景と動向、障害者理解の	1 「障害」「障害のある人」について理解する。 2 障害者福祉の理念を理解する。 3 障害者の生活実態とニーズを理解する。 振り返り・修了テスト		12	
	合計		12/12	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	障害の理解Ⅱ-1	時間	24	
到達水準	・各障害の内容・特徴および障害に応じた社会支援の考え方について概説できる。			
	・障害（児）者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況にあわせた支援ができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第9章医学的側面からみた 障害の理解				
第1節 身体障害	1 身体障害（者）とは何かを理解する。 2 視覚障害の特徴を理解する。 3 聴覚または平衡機能障害の特徴を理解する。 4 音声機能、言語機能障害または咀嚼機能の障害を理解する。 5 肢体不自由の特徴を理解する。 6 内部障害の特徴を理解する。	3		
第2節 知的障害	1 知的障害（者）とは何かを理解する。 2 知的障害とはどのようなものか、系統立てて理解する。	3		
第3節 精神障害	1 精神障害（者）とは何かを理解する。 2 精神障害とはどのようなものか、系統立てて理解する。 3 統合失調症の特徴を理解する。 4 気分障害の特徴を理解する。 5 神経症の特徴を理解する。 6 パニック障害の特徴を理解する。 7 アルコール依存症の特徴を理解する。 8 情緒障害の特徴を理解する。	3		
第4節 その他の障害	1 重症心身障害を理解する。 2 自閉症の特徴を理解する。 3 高機能自閉症とアスペルガー症候群の特徴を理解する。 4 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）の特徴を理解する。 5 学習障害（Ld）の特徴を理解する。 6 行動障害の特徴を理解する。 7 高次脳機能障害の原因疾患と種類を理解する。	3		
第5節 難病対策	1 難病とは何かを理解する。 2 難病対策の概要と課題を理解する。	3		
第6節 疾病・障害の受容	1 疾病と障害の違いを理解する。 2 障害の受容とは何か、どのような過程を経るのかを理解する。	3		
		合計	18/24	
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	障害の理解Ⅱ-2	時間		
到達水準				
科目の内容	内容の細目		訓練時間	
第10章障害（児）者への 支援の実際 第1節障害（児）者福祉の 理念 第2節障害（児）者の 支援方法	1 リハビリテーションを理解する。 2 ノーマライゼーションを理解する。 3 自己決定について理解を深める。 4 エンパワーメントを理解する。		3	
	1 医学モデルと社会モデルを理解する。 2 事例を通してケアマネジメントを理解する。		3	
	振り返り・修了テスト			
			合計	6/24
使用する機械 器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	こころとからだのしくみ I	時間	24		
到達水準	・身じたくの意義、関連する心身のしくみ、観察すべきポイントなどを理解している。				
	・移動の意義、関連する心身のしくみ、観察すべきポイントなどを理解している。				
	・食事の意義、関連する心身のしくみ、観察すべきポイントなどを理解している。				
	・入浴・清潔保持の意義、関連する心身のしくみ、観察すべきポイントなどを理解している。				
	・排泄の意味、関連する心身のしくみ、観察すべきポイントなどを理解している。				
	・睡眠の意味、関連する心身のしくみ、観察すべきポイントなどを理解している。				
科目の内容	内容の細目		訓練時間		
			学科	実技	
(1) 身じたく（着脱・整容・口腔）に関連したしくみ	1 身じたくのしくみ		4		
	2 心身機能低下が身じたくに及ぼす影響				
	(2) 移動に関連したしくみ	1 移動のしくみ			4
		2 心身機能低下が移動・移乗に及ぼす影響			
	(3) 食事に関連したしくみ	1 食事の行為のしくみ			4
		2 心身機能低下が食事に及ぼす影響			
(4) 入浴・清潔保持に関連したしくみ	1 入浴・清潔保持のしくみ		4		
	2 心身機能低下が清潔保持に及ぼす影響				
(5) 排泄に関連したしくみ	1 排泄のしくみ		4		
	2 心身機能低下が排泄に及ぼす影響				
(6) 睡眠に関連したしくみ	1 睡眠のしくみ		4		
	2 心身機能低下が睡眠に及ぼす影響				
	3 修了評価テスト				
			合計	24/24	
使用する機械器具等	テーブル、いす（食事用品、自助具他）特殊寝台、寝具、排泄用品（ポータブルトイレ、オムツ他）、入浴用品（簡易手すり他）、衣類、その他				
備考					

科目の内容・細目シート

科目	医療的ケア (No.1)	時間	学科63 実技30	
到達水準	<p>・タン吸引や経管栄養を提供する場合の安全の重要性がわかる。救急蘇生法や救命処置の必要性を理解し手順を説明できる。バイタルサインの見方がわかり急変時の対応がわかる。・感染予防の原則を理解し、清潔保持と適切な消毒法を行える。・呼吸の仕組みと機能を把握し、呼吸状態の観察法を身に付け、たん吸引を実施するかを判断が出来る。たん吸引によるトラブルと対応法を理解し、医療職との連携法を習得する。介護職としてのたん吸引（医療行為）するための制度の仕組みを理解出来る。たん吸引の必要物品を準備する事が出来、実践に於いて適切な手順で行える。・消化器系の仕組みと機能を把握し、加齢性の変化・疾患による変化を習得する。観察方法を身につけり。消化器の症状を理解し、経管栄養が必要な利用者の状態を観察できる。経管栄養法の特徴、トラブルと対応法を習得する。・経管栄養の実践に必要な物品を準備が出来、実践に必要な物品の準備が出来、必要な技術が適切に行える。・正しい尊厳と自立の概念を理解し支援が出来る。医療倫理に習熟し遵守する事が出来る。医療関連法規、介護保険法・医療、介護に関する制度が分かる</p>			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
第1章 安全な療養生活	第1節 たんの吸引や経管栄養の安全な実施	1		
	第2節 救急蘇生法	2		
	第3節 健康状態の把握	2		
	第4節 口腔内吸引の基礎知識	1		
第2章 清潔保持と感染予防	第1節 感染予防	2		
	第2節 介護職員の感染予防	1		
	第3節 療養環境の清潔と消毒法	1		
第3章 高齢者および障害（児）者の「たん吸引」概論	第1節 呼吸のしくみと機能	3		
	第2節 呼吸状態に変化が起こるのはなぜかー「いつも」の状態違との違いに気づく	1		
	第3節 たん吸引とは	2		
	第4節 人工呼吸器と吸引	2		
	第5節 小児の吸引	1		
	第6節 吸引を受け津利用者や家族の気持ち、説明と同意	1		
	第7節 たんの吸引に関わる呼吸器系の感染と予防	1		
	第8節 たん吸引により生じるトラブルとインシデントとアクシデント	1		
	第9節 急変・事故発生時の対応と対策	1		
第4章 「たんの吸引」の実践	第1節 たんの吸引実施の流れ	2		
	第2節 たん吸引で用いる器具・器材とその仕組み、清潔保持	2		
	第3節 たん吸引の実践	2	14	
	第4節 吸引の手順と評価	1		
	第5節 たん吸引に伴うケア	1		
	第6節 報告と記録	1		
第5章 高齢者および障害（児）者の「経管栄養」概論	第1節 消化器系のしくみと働き	3		
	第2節 消化器のさまざまな症状	3		
	第3節 経管栄養法とは	1		
	第4節 注入する内容に関する知識	1		
	第5節 経管栄養を行う際の留意点	1		
	第6節 小児の経管栄養	1		
	第7節 経管栄養に係る感染と予防	1		
	第8節 経管栄養をうける利用者や家族の気持ち	1		
	第9節 経管栄養に伴う危険のサインと対応	1		
第6章 「経管栄養」の実践	第1節 経管栄養実施の流れ	2		
	第2節 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	2		
	合計	49/63	14/30	
使用する機械器具等備考	たん吸引に必要な物品一式、経管栄養に必要な物品一式			

科目の内容・細目シート

科目	医療的ケア (No.2)	時間		
到達水準				
科目の内容	内容の細目		訓練時間	
第7章 人間の尊厳と医療の倫理 第8章 医療・介護関連法規とチーム医療	第3節 経管栄養の実践		2	16
	第4節 経管栄養の手順と評価		2	
	第5節 経管栄養に必要なケア		1	
	第6節 報告と評価		1	
	第1節 個人の尊厳と自立を支える介護		2	
	第2節 医療者に求められる倫理		1	
	第1節 医療・介護に関する制度		1	
	第2節 医療行為に関わる法律と解釈		2	
	第3節 チーム医療と介護職との連携		2	
		合計		14/63
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	外出介護従事者養成研修（全身性・視覚課程）	時間	16	
到達水準	・全身性障害者の生活を理解し、個人の主体性を尊重し、利用者自らがサービスを選択し、尊厳をもってその人らしい生活を送れるよう支援できる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 障がい者福祉に係る制度及びサービス、居宅介護	1 障がい者（児）福祉の制度とサービス	6		
	2 外出介護従事者の制度と義務			
	3 居宅サービス概論			
(2) 全身性障がい者の疾病、心理、基礎的な外出介護に係る技術	4 居宅介護従事者の職業倫理			
	1 全身性障がい者の理解	6		
	2 障がい者の心理			
	3 全身性障がい者の移動介助の基礎	4		
(3) 全身性障がい者の移動介助の理解	1 全身性障がい者の移動介助			
	2 実習			
		合計	16/16	
使用する機械器具等	車いす、杖、椅子、テーブル、アイマスク			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	同行援護従事者養成研修（視覚課程）	時間	20	
到達水準	・同行援護において、単なる移動支援ではなく、情報支援をふくむ外出時の同行に関する支援を行うものである事を理解し、同行援護のサービスが視覚障害者（児）の生活の質の向上につながるよう支援ができる。			
科目の内容	内容の細目		訓練時間	
(1) 視覚障がい者（児）福祉サービス	1 同行援護の制度と従業者の業務 2 障害・疾病の理解 3 障害者（児）の心理		6	
(2) 同行援護の基礎知識	1 情報支援と情報提供 2 代筆・代読の基礎知識		6	
(3) 基本技能・応用技能	1 基本技能・応用技能実習		8	
			合計	20/20
使用する機械器具等	車いす、杖、椅子、テーブル、アイマスク			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	生活支援技術 I	時間	24	
到達水準	・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解する。			
	・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。			
	・要介護度の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について、事例に基づき説明できる。			
	・在宅の生活における福祉用具・住宅改修の意義について説明できる。			
	・主な福祉用具の種類を挙げ、その活用方法について説明できる。			
	・住宅改修の基本的な考え方や具体的方法、配慮等について、高齢者の障害の種類や程度、行動特性などに着目して説明できる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 生活支援とICF	1 生活支援とICFの考え方		3	
(2) ボディメカニクスの活用	1 ボディメカニクスを活用した介護の原則		3	
(3) 介護技術の基本	1 介護技術の展開		7	
	2 食事の介護			
	3 排泄・尿失禁の介護			
	4 移動・歩行の介護			
	5 入浴・清潔の介護			
	6 衣服の着脱の介護			
(4) 環境整備、福祉用具活用等の視点	1 住宅生活と福祉用具・住宅改修の意義		11	
	2 室内整備と清掃			
	3 音、光、換気、空調、五感への働きかけ			
	4 混乱や失敗を招かない環境づくり、場所間違いなどの防止			
	5 修了評価テスト			
	合計		24/24	
使用する機械器具等備考	車いす、杖、入浴用品、特殊寝台、床走行式リフト、			

科目の内容・細目シート

科目	生活支援技術Ⅱ	時間	36	
到達水準	・要介護の変化に沿った基本的技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について、事例に基づき説明できる。			
	・環境整備、福祉用具活用等の視点			
	・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、並びに介護職員の役割や他の職種との連携（ボランティア含む）について、事例に基づいて説明できる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 介護技術の基本	1 食事の介護 2 排泄・尿失禁の介護 3 睡眠（ベットメイキング）、夜間の介護 4 入浴・清潔の介護 5 衣服の着脱の介護		20	
(2) 環境整備、福祉用具活用等の視点	1 福祉用具と住宅改修の基礎		6	
(3) ターミナル	1 ターミナルケアの条件とチームアプローチ 2 ターミナルケアにおける倫理 3 修了評価テスト		10	
		合計	36/36	
使用する機械器具等	テーブル、いす（食事用品、自助具他）特殊寝台、寝具、排泄用品（ポータブルトイレ、オムツ他）、入浴用品（簡易手すり他）、衣類、プロジェクター、プロジェクター			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	介護過程Ⅱ	時間	30	
到達水準	・アセスメントから評価までの基本的な流れが理解できる。			
	・「生活全体をアセスメントする」ことやニーズの把握の仕方について、事例に基づいて説明できる。			
	・生活の活性化やQOLの向上につながる生活プラン、ケアプラン、サービス計画作成の重要性および関係を説明できる。			
	・利用者を一人の「生活者」と捉え、ニーズを把握し、適切なアセスメントが実施できる。			
	・アセスメント、モニタリング、カンファレンスをするうえでの、コミュニケーション、観察、記録の重要性およびポイントについて、事例に基づき説明できる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 介護職による介護過程の実際	1 介護職が展開する生活支援としての介護過程		5.5	
	2 実践から学ぶ介護過程			
	3 演習			
(2) ケアマネジャーによるケアマネジメントと介護保険サービス——介護を含めた総合的支援	1 ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解		6.5	
	2 居宅サービス計画・各サービス計画（訪問介護計画、通所介護計画等）とサービスの関係			
	3 演習			
(3) ケアマネジャーによるケアマネジメント過程の展開	1 アセスメントとニーズの把握		18	
	2 居宅ケアプランの作成			
	3 各サービス計画——訪問介護計画、通所介護計画			
	4 ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリングと記録			
	5 演習			
	6 修了評価テスト			
		合計	30/30	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	介護過程Ⅲ	時間	54	
到達水準	・実務者研修過程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。			
	・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。			
	・介護計画を踏まえ、安全確保、事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。			
	・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じた介護を行うことができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 介護過程の展開の実際	1 事例に基づく介護過程の展開、（状況把握、事前評価、介護計画作成、実施、実施後の評価、記録、報告） 2 コミュニケーションの技法、状況の確認と不調のきざしの発見 3 演習 4 知識等の修得度評価		20	
(2) 介護技術の評価	1 ボディメカニクスの原理・原則 2 ベットメイキング 3 体位変換 4 移動・移動及び安全・安寧の介助の原則 5 排泄の介助の原則 6 衣服の着脱の介助の原則 7 食事の介助の原則 8 入浴・身体の清潔の介助の原則 9 演習 10 介護技術の評価・知識等の修得度評価		34	
		合計	54/54	
使用する機械器具等	杖、車いす、特殊寝台、テーブル、椅子、体交枕、寝具、スライディングシート・ボード、排泄用具（Pトイレ・おむつ等）、衣類、食事用具、入浴用品（簡易手すり等）、その他			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	こころとからだのしくみⅡ	時間	66	
到達水準	・人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。			
	・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴および治療・生活上の留意点、予防について説明できる。			
	・高齢者の疾病による症状や訴えについて、その内容・特徴を具体的に挙げると共に、基本的な対応方法を事例に基づいて説明できる。			
	・介護保険での特定疾病の種類を列挙できる。			
	・高齢者が罹患しやすい病気とからだの変化について基礎的な医学知識を習得している。			
	・身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠の意義、関連する心身のしくみ、観察すべきポイントなどを理解している。			
	・医学的な死の定義が概説でき、終末期のケア、医療職との連携方法などを習得している。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 人間の心理	1 人間の欲求と自己実現 2 こころのしくみの基礎		9	
(2) 人体の構造と機能——疾患との関わり	1 生活習慣病の理解 2 高血圧と糖尿病 3 筋骨格系疾患 4 口腔疾患 5 眼疾患 6 皮膚疾患——高齢者の皮膚とスキンケア 7 呼吸器疾患 8 泌尿器疾患 9 神経系疾患 10 精神疾患 11 介護保険制度における特定疾病の概要		27	
(3) 高齢者に多い病気と身体 のしくみ	1 高齢者の代表的な疾患		7	
(4) 身じたく（着脱・整容・ 口腔）に関連したしくみ	1 身じたくにおける変化の気づきと対応		1.5	
(5) 移動に関連したしくみ	1 移動における変化の気づきと対応		2	
(6) 食事に関連したしくみ	1 食事における変化の気づきと対応		1.5	
(7) 入浴・清潔保持に関連 したしくみ	1 入浴・清潔保持における変化の気づきと対応		1.5	
(8) 排泄に関連したしくみ	1 排泄における変化の気づきと対応		2	
(9) 睡眠に関連したしくみ	1 睡眠における変化の気づきと対応		1.5	
(10) 死にゆく人のこころ とからだのしくみ	1 「死」を理解する 2 終末期から危篤時、死亡時のからだの理解 3 死に対するこころの理解 4 医療職との連携 5 修了評価テスト		13	
		合計	66/66	
使用する機械 器具等	人体模型、骨格模型、テーブル、いす（食事用品、自助具他）特殊寝台、寝具、排泄用品（ポータブルトイレ、オムツ他）、入浴用品（簡易手すり他）、衣類、その他			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	普通救命講習 I	時間	3	
到達水準	・応急手当の重要性が理解できる。			
	・AEDの理解、使用方法が理解できる。			
	・応急手当、心肺蘇生、AED使用による適切な救命対応ができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) 応急手当の基礎知識	1 応急手当と救命措置、救命の連鎖と市民の役割、突然死を防ぐために、心臓や呼吸が止まってしまったら、応急手当のまとめ		1.5	
(2) 救命処置	1 救命措置の流れ、手順（心肺蘇生とAEDの使用・手順） 2 気道異物の除去 3 乳児に対する応急手当		0.5	
(3) 止血法、その他の応急手当	1 傷病者の管理法、搬送法、出血時の止血法、けがに対する応急手当、熱中症に対する応急手当、その他		0.5	
(4) その他	1 119番通報と救急車の呼び方 2 応急手当と感染症 3 評価テスト		0.5	
		合計	3/3	
使用する機械 器具等				
備考				

委託訓練モデルカリキュラム

資料2-1

訓練科名	プログラマ& システムエンジニア実務科	就職先の職務	初歩的な ・プログラマ ・システムエンジニア 事務を含む情報化リーダー		
訓練期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日 (6か月)				
訓練目標	①プログラミングに関する知識と技術を身につける。 ②社会人として必要な基礎力を養う。 ③情報処理関連の技術について幅広い知識を身につけ、就職に有利とされるIT国家資格 (ITパスポート、基本情報技術者試験)の資格取得を目指すスキルを身につける。				
仕上がり像	・様々な言語とプログラミング開発の知識を有する人材。 ・国家資格でもあるITパスポート、基本情報技術者試験取得を目標とし、IT業界で必要とされる ネットワーク、インフラなど幅広い技術と知識を身に付けた人材。 ・Office製品(Word、Excel、PowerPoint、Access)の機能とマクロを活用し、業務改善を提案 できる人材。情報化リーダーとしての役割を担う人材。				
訓練の内容	科 目	科 目 の 内 容		時 間	
	入所式等	入所式、オリエンテーション、修了式			
	学 科	アルゴリズム基礎	アルゴリズムの概要、アルゴリズム実践、基本アルゴリズム		30
		プログラミング基礎	プログラムの概要、Visual Basic、Visual C#、Java、SQL、HTML		60
		情報技術概論	基礎理論、コンピュータシステム、技術要素、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム戦略、経営戦略、企業と法務、データベース、ネットワーク、各カテゴリごとの問題演習		200
		就職支援	ジョブカード作成、就職に向けての方向付け、就職活動に向けての書類作成、就職面接ロールプレイング、職業人とのディスカッション、ビジネス講話		40
	実 技	社会人基礎力	パソコン基礎力、Wordの基本操作と活用、Excelの基本操作と活用、グループ課題演習、ビジネスマナー		49
		データベース実習	Accessの基本、Accessの応用、Accessの活用、Access問題演習、課題演習		60
		ネットワーク実習	ネットワークの各種コマンド、システム動作の確認		20
		VBA演習	マクロとVBAの概要、VBA基礎、ユーザーフォーム、ExcelVBAベーシック問題、VBA演習		60
		プレゼンテーション実習	PowerPointの基本操作、プレゼンテーションの企画、課題作成演習、プレゼン発表		30
		プログラミング演習	Javaの環境構築、Javaの基本文法、Javaのオブジェクト指向、サーバサイドJava、JavaFX、Linuxサーバの操作、DB構築とSQL、総合演習、実務演習		150
訓練時間総合計	学科	330	実技	369	699
主要な機器設備 (参考)	パソコン一式、プリンタ、プロジェクタ、インターネット利用環境、LAN環境、ソフトウェア (OS Windows8.1/10、Linux、Eclipse)、ビジネスアプリケーション(Office2013) タブレット(iPad mini)				

科目の内容・細目シート

科目	アルゴリズム基礎	時間	30	
到達水準	物事の処理順序(フロー)を考えられる。			
	処理順序における基本要素を知っている。(処理・条件分岐・繰り返し)			
	要件だけを聞き、要件を満たす処理順序(フロー)を構築できる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
アルゴリズムの概要	1 概要 ・身近なものをフローチャートとして置き換える ・フローチャート作成における基本的な考え方・構築手順 ・アルゴリズムの考え方	6		
アルゴリズム実践	1 フローチャート作成 ・フローチャート記号の説明 ・身近な動作をフローチャートとして作成 ・提示した要件に対して、要件を満たすフローチャートを作成	12		
基本アルゴリズム	1 基本アルゴリズム ・最大値の考え方、ソート ・2次元配列問題 ・擬似言語問題	12		
		合計	30	
使用する機械器具等	PC (Windows OS)			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	プログラミング基礎	時間	60	
到達水準	身近なものにプログラムが使われている意識を持っている。			
	プログラムを構成する基本要素を知っている。(処理・計算・イベント)			
	プログラミング言語の違いを知っている。			
	基本的なSQL構文を知っている。			
	HTML、スタイルシートの概要を知っている。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
プログラムの概要	1 概要 ・身近なものに使われているプログラム例 ・プログラムにおける基本的な考え方・構築手順	6		
Visual Basic	1 Visual Basic の基礎 ・Windows用アプリケーションの特徴 ・Visual Basicの開発環境 ・オブジェクト指向プログラミングの考え方 ・画面の設計 ・条件分岐	12		
Visual C#	1 Visual C# の基礎 ・Visual Basicとの比較	9		
Java	1 Javaの基礎 ・プログラムの書き方 ・オブジェクト指向 ・API活用術	18		
SQL	1 SQLの基礎 ・テーブルの構造、構文、関数 ・各種データベース (Oracle、MySQL) での違い ・アプリケーションでの利用方法	9		
HTML	1 HTMLの基礎 ・タグの記述 ・スタイルシート	6		
		合計	60	
使用する機械器具等	PC (Windows OS)			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	情報技術概論	時間	200	
到達水準	企業活動（組織形態）や経営管理（在庫管理、財務諸表）などの基本的な考え方を知っている。			
	情報システム戦略（効率化、コスト削減）の意義を理解し、改善などに向けた考え方を知っている。			
	ソフトウェア開発のプロセス（要件定義、設計、テスト）を理解している。			
	日程管理（ガントチャート、アローダイアグラム）を理解している。			
	コンピュータの基本的な構成（ハードディスク、メモリ、CPU）を知っている。			
	法律（知的財産権、不正アクセス禁止法）を知っている。			
	インターネットの概要、サービス、セキュリティについて知っている。			
ネットワークに関するハードウェア装置（ハブ、ルーターなど）を知っている。				
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
・基礎理論	1 集合と論理演算、論理回路、2進数、補数	15		
・コンピュータシステム	1 CPU、メモリ、キャッシュメモリ、システムの構成、RAID、システムの信頼性	18		
・技術要素	1 ヒューマンインタフェース、画面設計、排他制御、障害回復	6		
・開発技術	1 要件定義、システム設計の流れ、プログラミング、テスト、運用保守	9		
・プロジェクトマネジメント	1 PMBOK、WBS作成、アローダイアグラム、ガントチャート、リスクマネジメント	3		
・サービスマネジメント	1 PDCAマネジメントサイクル、SLA、インシデント管理、システム監査	6		
・システム戦略	1 情報システム戦略、業務プロセス、ソリューションサービス、システム企画	6		
・経営戦略	1 経営戦略、マーケティング、技術戦略、電子商取引、ビジネスシステム	3		
・企業と法務	1 在庫管理、損益分岐点、貸借対照表、知的財産権、情報セキュリティ関連法規	6		
・データベース	1 データベース言語（SQL）、SELECT文	18		
・ネットワーク	1 ネットワーク機器、通信プロトコル、IPアドレス、情報セキュリティ	20		
・各カテゴリごとの問題演習	1 ITパスポートレベルの問題演習	40		
	2 基本情報技術者試験レベルの問題演習	50		
		合計	200	
使用する機械器具等				
備考				

科目の内容・細目シート

科目	就職支援	時間	40	
到達水準	自身の職務経歴を振り返り、ジョブカードの作成ができる。			
	履歴書、職務経歴書、添え状の作成ポイントを理解し、作成することができる。			
	就職面接のポイントを理解し、模擬面接に取り組むことができる。			
	就職に対する意識を高め、就職活動の設計ができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
ジョブカード作成	1 ジョブカード作成支援 ・ジョブカードの作成ポイント、作成実習、職務経歴の棚卸 ・ジョブカードをもとにキャリアコンサルティング ・ジョブカード作成ツールを活用し、自分自身の強みを再確認 ・ジョブカードの修正アドバイス	10		
就職に向けての方向付け	1 自己分析と就職活動に対する意識づけ ・コミュニケーションの必要性 ・自己分析、他人から見た自分 ・仕事の価値観の再確認、自分に合う仕事、やりたい仕事 ・キャリアアンカー、将来の自分 ・求人票の見方、求人検索	12		
就職活動に向けての書類作成	1 書類作成支援 ・履歴書の作成、履歴書の提出と添削アドバイス ・職務経歴書の作成、職務経歴書の提出と添削アドバイス ・添え状の作成、添え状の提出と添削アドバイス	10		
就職面接ロールプレイング	1 就職面接のポイント、ロールプレイング、アドバイス	3		
職業人とのディスカッション	1 プログラマ、システムエンジニアの業務に従事している社員とのディスカッション	2		
ビジネス講話	1 代表取締役社長によるビジネス講話（求める人材、仕事に対する意識）	3		
		合計	40	
使用する機械 器具等	PC(Windows OS)			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	社会人基礎力	時間	49	
到達水準	Wordの機能を活用し、レイアウト構成にも配慮した文書が作成できる。			
	Excelの機能を活用し、帳票類（請求書）の作成ができる。			
	数式や関数の適用ができる。			
	社会人基礎力（コミュニケーション、チームワーク）を意識したグループ演習ができる。			
	ビジネスマナーを理解し、様々なケースに応じた的確な電話応対ができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
パソコン基礎力	1 パソコンの基本操作、タッチタイピングの練習		2	
Wordの基本操作と活用	1 Wordの基本操作 ・ビジネス文書の作成と編集、表の作成と編集、段組み、改ページ ・画像の挿入と編集、図形の挿入と編集		8	
	2 問題演習		6	
Excelの基本操作と活用	1 Excelの基本操作 ・データの入力、表の作成と編集、計算式と関数の挿入 ・複数シートの操作、印刷の設定、グラフの作成と編集 ・データベース機能、テーブル変換、改ページ、条件付き書式設定、検索置換 ・複数の関数の組み合わせ		12	
	2 問題演習		6	
グループ課題演習	1 グループで課題作成（コミュニケーション力、協働力、職業意識の醸成）		6	
ビジネスマナー	1 社会人として必要なビジネスマナー ・電話応対、ビジネスマナー、言葉遣い、接客のマナー、訪問時のマナー ・クレーム対応、ロールプレイング		9	
		合計	49	
使用する機械器具等	PC (Windows OS) / Word2013 / Excel2013			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	データベース実習	時間	60	
到達水準	テーブル、クエリ、フォーム、レポートを作成できる。リレーションシップを設定できる。			
	マクロを記録し、ボタンに設定することができる。			
	Accessを使って、簡単なシステムを作成することができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
Accessの基本	1 Accessの基本操作 ・テーブルの作成、リレーションシップの設定 ・クエリの作成（演算フィールド、抽出、集計） フォームの作成、レポートの作成		15	
Accessの応用	1 Accessの応用操作 ・データのエクспорт、インポート、フィールドのデータ型、定型入力 ・パラメータクエリ、クロス集計、コンボボックスの挿入 ・コントロールの追加、書式設定		15	
Accessの活用	1 Accessの活用操作 ・メニューフォームの作成 ・マクロの登録 ・メニューボタンの作成		6	
Access問題演習	1 模擬問題練習		12	
課題演習	1 Accessを活用したシステムの作成 ・システム内容の把握 ・データベース構築 ・システムの作成		12	
		合計	60	
使用する機械器具等	PC(Windows OS) / Access2013			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	ネットワーク実習	時間	20	
到達水準	ネットワークコマンドを使用して、ネットワークの状況を調査できる。			
	ネットワーク機器の設定と動作確認ができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
ネットワークの各種コマンド	1 基本的なコマンドの確認 ・ping、tracert、netstat		8	
システム動作の確認	1 ネットワーク機器の設定と動作確認 ・ケーブル配線、ハブの接続、ルータの接続 ・IPアドレスの設定 ・プリンタのドライバインストール、プリンタの共有 ・トラブルシューティング、ネットワークコマンドの確認		12	
		合計	20	
使用する機械器具等	PC(Windows OS)／LANケーブル、ハブ、ルータ			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	VBA演習	時間	60	
到達水準	マクロの基礎知識を理解し、プロシージャを記述することができる。			
	セルの操作 (Range、Cells) を記述できる。			
	ステートメント (If文、For～Next文) を記述できる。			
	VBAを使ってExcelの自動化、業務の効率化を検討することができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
マクロとVBAの概要	1 マクロの記録とVBAの違い、マクロの実行、マクロの編集、保存		3	
VBA基礎	1 VBA基礎 ・プロシージャ ・関数、演算子 ・変数と定数 ・セルの操作 ・ステートメント ・関数 ・ブックとシートの操作		25	
ユーザーフォーム	1 ユーザーフォーム ・コントロールの挿入 ・Do Loopステートメント		6	
Excel VBA ベーシック問題	1 問題練習、解答解説		6	
VBA演習	1 VBAを使ったExcelの効率化 ・課題演習		20	
		合計	60	
使用する機械器具等	PC (Windows OS) /Excel2013			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	プレゼンテーション実習	時間	30	
到達水準	PowerPointの機能（アニメーション、画面切り替え効果）を活用したスライドを作成できる。			
	プレゼンテーション資料の作成・発表ができる。			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
PowerPointの基本操作	1 PowerPointの基本操作演習 <ul style="list-style-type: none"> ・ プレースホルダの操作、図形、画像の挿入 ・ SmartArtの挿入と編集、グラフの挿入と編集 ・ 画面切り替え効果、アニメーションの設定と編集 ・ 配布資料、ノートの作成と活用 		6	
プレゼンテーションの企画	1 効果的なプレゼンテーションの企画 <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼン発表までの流れ、企画と構成の検討 ・ 効果的なスライド作成と発表技術のポイント 		3	
課題作成演習	1 プレゼン発表に向けた課題作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自テーマを決めて、伝えたい内容をスライドにまとめる ・ スケジュールの検討、ガントチャートの作成 ・ プレゼン発表に向けての練習と改善 		15	
プレゼン発表	1 プレゼン発表		6	
		合計		30
使用する機械器具等	PC (Windows OS) / PowerPoint2013			
備考				

科目の内容・細目シート

科目	プログラミング演習	時間	150	
到達水準	JAVAの基本文法を知っている。			
	オブジェクト指向の概念を知っている。			
	JAVAの基本的なプログラムを作成できる。			
	Webシステムのプログラミングについて知っている。(ネットワーク実習、セキュリティ実習と関連)			
	DBを使ったプログラミングについて知っている。(データベース実習、セキュリティ実習と関連)			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
Javaの環境構築	1 概要と環境構築 ・概要 ・JDKのインストールと環境変数の設定、メモ帳によるPG作成 ・eclipseのインストールと環境設定、PG作成		9	
Javaの基本文法	1 基本文法の記述演習 ・変数、配列 ・代入演算子、関係演算子、論理演算子 ・条件判断、繰り返し処理		13	
Javaのオブジェクト指向	1 オブジェクト指向 ・概要と作成済みプログラムの構造確認 ・クラスを作る、カプセル化、継承(インタフェース含む) ・ファイル操作		36	
サーバサイドJava	1 サーバサイドJava ・アプリケーションサーバ(Tomcat)のインストール ・サーブレットの作成、JSPの作成 ・サーブレットとJSPを組み合わせた画面遷移を伴うPG作成		32	
JavaFX	1 GUIで作るJavaアプリケーション		10	
Linuxサーバの操作	1 Linuxサーバの操作で行ったコマンド操作		6	
DB構築とSQL	1 JavaからDBを操作 ・JSP&サーブレットによるDB検索処理の作成		12	
総合演習	1 蔵書管理システムの開発(JSP&サーブレット) ・要件説明、リクエスト、セッション等の復習 ・Linuxサーバの環境構築(Apache, tomcat, mysql, ssl, fw) ・登録、検索、一覧表示のいずれかの機能を開発 ・Webシステムのセキュリティ対策		20	
実務演習	1 開発の企画、設計、問題解決のシミュレーション実習		10	
		合計	150	
使用する機械器具等	PC (Windows OS及びLinux OS)			
備考				

訓練教材リスト

訓練科名：プログラマ&システムエンジニア養成科

教材名	出版社名	教材使用科目（分野）
基本情報技術者試験対策テキスト 平成27-28年度版	FOM出版	情報技術概論
Microsoft Access 2013 基礎	FOM出版	データベース実習
MOS Microsoft Access 2013 対策テキスト& 問題集	FOM出版	データベース実習
VBAエキスパート公式テキスト Excel VBA Basic	オデッセイ コミュニケーションズ	VBA 演習
すっきりわかるJava入門	インプレス	プログラミング基礎
Eclipse4.5で始める Javaプログラミング入門	秀和システム	プログラミング演習
仕事力を身に付ける20のステップ	FOM出版	社会人基礎力 就職支援
作って覚える Visual Basic 2015 デスク トップアプリ入門	秀和システム	プログラミング基礎
基本情報技術者 集中ゼミ 2016年 版午後・アルゴリズム編	日本経済新聞出版社	アルゴリズム基礎
スラスラわかるネットワーク&TCP/IPの きほん	リブロワークス	ネットワーク実習
SQL データベース操作	-	プログラミング基礎
Microsoft Word2013基本	-	社会人基礎力
Microsoft Excel2013基本	-	社会人基礎力
Microsoft PowerPoint2013基本	-	プレゼンテーション実習

※上記については、特定の出版社および書籍の宣伝や推奨をするものではありません。最終判断はご利用者自身となりますのでご注意ください。各教材の詳細情報や最新情報を取得したい場合は、出版社情報等を参考に各自でお問い合わせください。